

令和 8 年度要覧



埼玉県立
歴史と民俗の博物館
Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

設置の目的・事業

埼玉県立歴史と民俗の博物館設置の目的は、資料の収集、保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図ることにより、教育や学術、文化の発展に寄与することにある。

その目的を達成するために、次の事業を行っている。

- 1 郷土埼玉の文化を総合的に捉え、その変遷と発展を知るための歴史及び民俗資料等について調査研究し、収集・保管し、展示する。
- 2 資料を適正に管理するとともに、文化財保存機関としての事業を行う。
- 3 資料の利用に関する必要な解説、案内、指導、助言等を行う。
- 4 資料に関する講演会、講習会、実演会、研究会等を主催し、開催を支援する。
- 5 資料に関する案内書、解説書、図録、調査報告書等を刊行し、頒布する。
- 6 他の博物館、学校その他の関係機関等と協力し、その活動を支援する。
- 7 その他当館の目的を達成するために必要な事業を行う。

もくじ

埼玉県立歴史と民俗の博物館の使命	1
沿 革	1
令和8年度事業計画	3
令和7年度事業報告	14
令和7年度利用者数	26
展示概要等	27
組織及び職員構成	30
施設設備	32
資 料	35
利用案内	39

埼玉県立歴史と民俗の博物館の使命

1 本館の使命

本館は、埼玉の歴史と民俗に関する資料を収集・保管し、総合的に調査研究することにより、埼玉の地域的特性を明らかにし、その成果を展示公開・情報発信するとともに、県民の学習活動や交流の場となることにより、県民各層の心豊かなくらしと新たな文化の創造に寄与する博物館です。

私たちは、博物館に携わるすべてのマンパワーと資源を駆使して、埼玉の魅力をアピールするとともに、県民と協働した生涯学習を推進する中核的生涯学習施設としての役割を果たします。

- 1 県民共有の文化遺産である埼玉の歴史・民俗・美術工芸に関する資料を収集・保管・活用するとともに、調査研究して、次世代に継承します。
- 2 埼玉の歴史と民俗に関する地域的特性を明らかにした調査研究の成果を展示公開するとともに、国内外に情報発信します。
- 3 地域や学校と連携することにより、県民の参画と交流による学習の場として、埼玉の歴史や民俗に関する生涯学習や学校教育を支援します。
- 4 県内の博物館ネットワークの中核的施設として、市町村の歴史・民俗系の博物館を中心に、その事業や活動を支援します。
- 5 ボランティアやミュージアムクルーの育成・活用等を積極的に進めるとともに、様々な事業において、学校や地域社会の幅広い人材と広く連携・協働し、開かれた博物館活動を展開します。
- 6 埼玉の歴史や民俗に関する資料を核にして県民が集い、交流し、活動するやすらぎと潤いのある快適空間を提供します。

【 沿革 】

本館は、旧県立博物館と旧県立民俗文化センターを統合し、平成18年4月1日に誕生した歴史、民俗、美術工芸の分野を広域的、総合的、多元的に扱う人文系総合博物館である。

母体となった2館のうち、旧県立博物館は、昭和46年11月、明治4年の埼玉県誕生から100年を記念して、人文系総合博物館として開館した。その後、昭和57年11月の県立近代美術館の開館を機に、展示室を全面的に改装して歴史系博物館に衣替えし、昭和58年11月に新装開館した。

一方、昭和55年11月に開所した旧県立民俗文化センターは、民俗芸能及び民俗工芸を調査研究の対象とする施設として全国に先駆けた存在であった。

その後、平成17年2月に策定された「県立博物館施設再編整備計画」により両館が統合され、収蔵資料はもとより長年培ってきた調査研究の成果を結集して、新たに「埼玉県立歴史と民俗の博物館」として発足した。

昭和	平成
34年12月 埼玉県立博物館の設置についての請願を 県議会において採択	14年 7月 「太平記絵巻（巻第六）」を購入 11月 第4回日本建築家協会25年賞受賞
43年 8月 埼玉県立博物館建設基本構想を決定 11月 設計を(株)前川國男建築設計事務所へ委託	16年10月 清子内親王殿下 お成り
44年 9月 博物館建設工事費として13億円を計上 10月 県立文化会館を廃止し、新たに県立博物館 準備事務所を県立浦和図書館内に設置	18年 4月 県立博物館施設再編整備計画により、埼玉 県立博物館と埼玉県立民俗文化センターを 統合、埼玉県立歴史と民俗の博物館設置
46年11月 埼玉県立博物館条例を制定、開館	19年 3月 関東地区博物館協会初の共同企画展「祈り の風景－埼玉の絵馬－」開催
47年 9月 「太平記絵巻（巻第一）」を購入 12月 博物館法第11条に基づく登録博物館となる	4月 体験学習施設「ゆめ・体験ひろば」を開設
51年 1月 文化財保護法第48条に基づく国宝・重要文 化財の勧告・承認出品の展示館となる	20年 3月 大規模改修及び耐震補強工事第Ⅰ期完了 21年10月 交流企画展「出張博物館 in 深谷」開催
55年11月 埼玉県立民俗文化センター開所	22年 2月 大規模改修工事第Ⅱ期完了 23年 3月 大規模改修工事第Ⅲ期完了 階段昇降機設置
58年11月 埼玉県立博物館新装開館、記念特別展「武 蔵武士」開催 12月 国宝「太刀」（銘備前国長船住左兵衛尉景光） を購入	24年 9月 天皇皇后両陛下 行幸啓 25年 6月 秋篠宮文仁親王殿下 お成り 7月 65歳以上の観覧料減免措置廃止
60年 4月 エントランスホール、館庭等を無料開放 元日を除く国民の祝日を開館日とする	26年 8月 入館者累計500万人達成 28年 2月 特別展示室非構造部材耐震対策工事完了 29年 3月 南通用門の開放
平成	令和
3年10月 開館20周年記念展「さいたまの名宝」 開催	2年 2月 感染症感染拡大防止のため臨時休館（～5月） 12月 感染症感染拡大防止のため臨時休館（～3月）
5年 4月 国宝「短刀」（銘備州長船住景光）を購入	3年 3月 NHK大河ドラマ特別展「青天を衝け～渋沢栄 一のまなざし～」開催
6年 3月 障害者対応型エレベータ設置	3年 9月 開館50周年記念事業を実施（～12月） 10月 埼玉150周年及び開館50周年記念特別 展「埼玉考古50選」開催
6年 4月 高齢者（65歳以上）及び障害者等の入館料 無料化 幼児コーナー及び休憩コーナーを開設	5年 9月 大規模改修工事第Ⅰ期完了 7年 1月 入館者累計600万人達成
7年 4月 義務教育終了前の者の入館料無料化 10月 「太平記絵巻（巻第七）」を購入	
8年 4月 「太平記絵巻（巻第二）」を購入	
10年 6月 ホームページ開設 11月 公共建築百選に選定	
13年11月 「太平記絵巻（巻第十）」を購入	
14年 5月 2002 FIFA ワールドカップ™ 記念特別展 「蹴鞠-KEMARI-」開催	

令和 8 年度 事業計画

◆事業運営の基本方針

1 事業運営の方針

平成 18 年 4 月、当館は、歴史、民俗、美術工芸の分野を広域的、総合的、多元的に扱う人文系総合博物館である「埼玉県立歴史と民俗の博物館」として再出発して以来、その使命を果たすべく取り組んできた。

令和 8 年度は、この再出発から 20 年目となる。昨年度に引き続き、博物館事業の基本となる埼玉の歴史と民俗に関する資料を適切に収集・保存・修復し、総合的に調査研究することによって、埼玉らしさを明らかにするとともに、当館ならではの魅力の掘り起こしに力を入れ、その成果を最大限活用して国内外への情報発信に努めていく。また、学習支援事業を推進し、学校や地域等との連携を深め、県民利用の一層の促進を図る。

さらに、少子高齢化やグローバル化の進展など社会情勢の変化に対応し、県民を中心に世界中の人々が誰でも参加できる親しみやすい事業運営に努めるとともに、多様な人材の育成及び生涯にわたる学びを支援できるよう工夫する。また、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえながら、すべての人をやさしく迎え、すべての人が楽しめる博物館を目指す。

【主な施策】

- (1) 調査研究に基づく、資料の収集・保管と展示の充実
- (2) 常設展及び特別展・企画展に関わる調査と資料収集、展示の充実
- (3) 県民の学習支援の推進と講座・講習会等の充実
- (4) 体験学習・展示解説ボランティア活動の促進
- (5) 高度情報化に対応した広聴・広報活動の充実
- (6) 学校教育・社会教育・地域社会・民間団体等との連携

2 事業運営の重点的な取組

- (1) 埼玉の地域的特性を明らかにする組織的、継続的な文化遺産を対象とする調査研究の実施
- (2) 総合的有害生物管理と資料総点検作業の計画的な実施

【中期的な目標と取組 (1)】

- (3) 「埼玉ならではの価値」を発信する魅力的な展覧会の開催

【中期的な目標と取組 (1)】

- (4) 「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた学校教育との連携の強化

【中期的な目標と取組 (3)】

- (5) 「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会等関係機関との連携による地域の魅力発信
- (6) 博物館ホームページの充実や SNS の活用、関係機関等との連携による戦略的広報の推進

【中期的な目標と取組 (2)】

- (7) 安心・安全で快適な空間を提供する改修工事を始めとする施設の充実

【中期的な目標と取組 (4)】

◆主要事業計画

1 中期的な目標と取組

- (1) 研究テーマに基づく調査研究と展示公開の取組（令和5年度～10年度）
 - ① チームによる調査研究の継続実施と展示計画の検討及び展示の実施
 - ② 中期的な調査研究テーマの検討に基づくチーム編成と調査開始、展示公開へ向けたスケジュールの検討（令和7年度～10年度）
- (2) ホームページやSNSを駆使した効果的な情報発信の取組（令和8年度～10年度）
 - ① ホームページ「スタッフブログ」及び「れきみんミュージアムノート」の充実
 - ② 館有資料に関するデジタルコンテンツの制作と公開
 - ③ 常設展示室にかかる情報発信の充実
- (3) ICTを効果的に活用した学校連携の強化（令和5年度～9年度）
 - ① 学校のニーズに合致したオンライン授業の研究・実施
 - ② ホームページから閲覧可能な調べ学習動画やものづくり体験説明動画の制作・公開の充実
- (4) 誰もが利用しやすい館内、理解しやすい展示環境実現の取組（令和8年度～10年度）
 - ① センサリーマップの作成
 - ② アクセシビリティに配慮した来館者対応向上の研究・実施

2 調査研究事業

- (1) 「埼玉の地方文化とその特性ー地域文化圏に関する調査研究ー」を館職員の調査研究共通テーマとし、その成果を『紀要』に掲載
- (2) 『紀要』第21号の編集、刊行
- (3) 文化遺産調査活用事業 民俗文化財調査事業「埼玉の奉納習俗及び奉納物調査」（第Ⅰ期）の実施
- (4) 次年度開催特別展・企画展に関する調査研究
- (5) 県立博物館8館合同ミュージアムフォーラム学芸員合同研究発表会への参加

3 資料調査事業

- (1) 資料の収集
埼玉県歴史・文化・伝統を象徴するコレクションの形成・充実に重点を置いた購入等を図り、さらに無形民俗文化財の映像等による記録保存にも努める。
- (2) 資料の整理・保存・管理
収集した資料を整理し、保存管理に万全を期するため、毎月資料総点検を実施するほか、劣化の進んだ資料については修理を実施する。
さらに総合的有害生物管理（Integrated Pest Management 略してIPM）を実施して、虫菌害予防のための資料保存・管理及び対策を図る。
「刀 銘（菊紋）越中守正俊」、「脇指 銘 丹波守吉道」の修理を行う。
- (3) 館施設の防虫消毒
第1期 6月1日（月）～6月8日（月） 休館期間 左の期間と同様
第2期 9月7日（月）～9月8日（火） 休館期間 左の期間と同様
- (4) 減圧滅菌装置による初発燻蒸
新規受入資料及び外部借用資料等の減圧滅菌装置及び殺虫バッグによる燻蒸殺虫を適宜行い、有害生物の防除に万全を期する。

(5) 嵐山史跡の博物館・文化財収蔵施設等にある当館所蔵の民俗資料を適切に管理する。

4 常設展示事業

メインテーマ：「埼玉における人々の暮らしと文化」

(1) 展示替え

① 考古特集展示（第1室）

「縄文人と豊かな植物資源」 令和7年7月15日（火）～令和8年7月12日（日）

「大宮公園内遺跡 博物館の下には…？」

7月14日（火）～令和9年7月11日（日）

② 美術展示（第4室）

「仏教の美術」 3月10日（火）～ 5月31日（日）

「いきもの図鑑－動物、虫を描く－」 6月 9日（火）～ 8月30日（日）

「聖なる人びと－三十六歌仙額と賢聖障子絵－」 9月 1日（火）～10月25日（日）

「きん・ぎん・すなご－金工品と装飾経－」 10月27日（火）～令和9年1月17日（日）

「花の園－花鳥画を中心に－」 令和9年1月19日（火）～3月 7日（日）

「信仰を形に－仏教彫刻と慈光寺経－」 令和9年3月 9日（火）～5月 9日（日）

③ 歴史特集展示

第9室「埼玉の宝物調査」 3月10日（火）～ 5月31日（日）

第9室「二・二六事件と昭和」 6月 9日（火）～ 9月13日（日）

第9室「川村碩布と俳諧」 9月15日（火）～12月13日（日）

第9室「埼玉と航空」 12月15日（火）～ 令和9年3月 7日（日）

第3室「国宝太刀・短刀の公開」 令和9年1月26日（火）～ 2月28日（日）

第9室「天体観測」 令和9年3月 9日（火）～ 5月30日（日）

④ 民俗コラム展示（第10室）

「藁を編む」 3月17日（火）～ 5月31日（日）

「重要有形民俗文化財「北武蔵の農具」－運ぶ道具－」 6月9日（火）～ 9月13日（日）

「竹縄－「最強ロープ」ができるまで－」 9月15日（火）～11月29日（日）

「開運！福を招く福熊手」 12月1日（火）～ 令和9年3月 7日（日）

「鍬、ならべてみました。K（鍬）-1グランプリ」 令和9年3月9日（火）～5月30日（日）

⑤ 季節展示（季節展示室）

所沢航空発祥記念館が当館で出張展示を実施する

出張展示「所沢飛行場ものがたり」 令和9年1月2日（土）～ 2月21日（日）

⑥ 定例展示替え

毎月第4月曜日を目安に展示替えを実施。

(2) 国宝・重要文化財の公開

国宝 法華経一品経（ときがわ町・慈光寺） 3月10日（火）～ 5月10日（日）第4展示室
令和9年3月9日（火）～ 5月 9日（日）第4展示室

国宝 太刀 令和9年1月26日（火）～ 2月28日（日）第3展示室

国宝 短刀 令和9年1月26日（火）～ 2月28日（日）第3展示室

重文 大般若経（日高市・高麗神社） 3月 3日（火）～ 5月10日（日）第3展示室

重文 銅造阿弥陀如来立像（神川町・光明寺）

2月17日(火)～5月10日(日)第4展示室
重文 絹本著色高野明神像・丹生明神像(越生町法恩寺)

3月10日(火)～4月26日(日)第4展示室

重文 雲版(飯能市・長光寺) 10月20日(火)～12月13日(日)第3展示室

重文 三十六歌仙額(川越市・仙波東照宮)

9月1日(火)～10月25日(日)第4展示室

重文 宋版一切経(川越市・喜多院) 10月27日(火)～12月13日(日)第7展示室

重文 紙本著色伝貞巖和尚像(久喜市・甘棠院)

9月29日(火)～10月18日(日)第5展示室

重文 阿弥陀聖衆来迎図(熊谷市・常光院)

3月14日(土)～5月6日(水・振休)第4展示室

(3) 重要有形民俗文化財の展示

重民 北武蔵の農具 4月1日(水)～令和9年3月31日(水)第10展示室

5 特別展・企画展等

(1) 特別展

名称・開催期間	展 示 内 容
特別展 「埼玉の宝物 ～人々が守り伝えた文化財～」 令和8年3月14日(土) ～5月6日(水・振休)	平成18年4月に当館の前身である埼玉県立博物館と埼玉県立民俗文化センターが統合し、令和8年4月で20周年を迎えるのを記念し、県内に所在する国・県指定文化財のうち平成11年度以降に指定された文化財を展示する。 当館では平成3年度に県立博物館開館20周年記念展として、埼玉を代表する文化財を一堂に会した特別展「さいたまの名宝 国宝・重要文化財」を開催した。その後各分野に焦点をあてた指定文化財を紹介する展覧会「埼玉の名宝シリーズ」をおこなってきたが、複数の分野の指定文化財が一堂に会する展覧会は平成11年度以来のこととなる。 開催日数：48日 展示資料：344点 [関連事業] ・記念講演会 4月18日(土) ・展示解説 3月22日(日)、29日(日)、4月12日(日)、5月6日(水・振休) ・歴史民俗講座 4月11日(土) ・民俗工芸実演 4月25日(土) ・現地見学会 5月1日(金)

名称・開催期間	展 示 内 容
特別展 「文人画家の寄り道 —文晁、華山と同好の士—」 令和8年10月10日（土） ～11月23日（月・祝日）	江戸時代（18世紀）に中国的な教養や中国絵画の影響を受け関西で確立された文人画（南画）は、関西周辺だけでなく関東へも伝わった。関東を代表する文人画家・谷文晁、文晁に絵を学んだ渡辺華山、その師友の文人画家たちは、関東各地を訪ね、地元の豪商や文化人と書画を楽しむ場につながっていた。 本展では、関東で活躍した文人画家や埼玉ゆかりの画家の足跡をたどり、また画家の創作活動を支えた書画の愛好家たちとの交流を紹介する。 開催日数：40日 展示資料：約80点 [関連事業] ・記念講演会 11月3日（火・祝） ・展示解説 10月12日（月・祝）、25日（日）、 11月14日（土・県民の日）、 23日（月・祝） ・歴史民俗講座 10月24日（土） ・民俗工芸実演 10月31日（土）
特別展 「赤煉瓦と埼玉」 令和9年3月13日（土） ～5月5日（水・祝日）	明治時代から大正時代にかけて盛衰した煉瓦建造物は日本の近代化の象徴的存在であり、煉瓦と埼玉県には深い関わりがある。明治20年（1887）に渋沢栄一らが設立した日本煉瓦製造株式会社をはじめとして、埼玉県は関東の主要な煉瓦生産地のひとつであった。 また、埼玉県は煉瓦造の治水施設（河川構造物）の数が日本一ともいわれ、現在も煉瓦造の建造物が県内各地に遺されている。本展では、埼玉県を中心に、主に関東地方の煉瓦の普及と盛衰の歴史、煉瓦建造物の楽しみ方、現存する煉瓦建造物等を紹介する。 開催日数：49日 展示資料：約160点 [関連事業]（予定・日程未定） ・記念講演会 ・見学会 ・ミニ講座「煉瓦入門」 ・歴史民俗講座 ・展示解説 3月21日（日・祝）、4月11日（日） 5月2日（日）、5月5日（水・祝）

(2) 企画展等

名称・開催期間	展 示 内 容
企画展 「土をこねこね 1 万年 ～土製品の考古学～」 令和 8 年 7 月 1 1 日 (土) ～ 8 月 3 0 日 (日)	土をこねて成形し、焼いて道具を作ることは 1 万年以上続く人々の営みの一つである。縄文時代以降、土器や耳飾りのような衣食住に必要な道具類のほかに、土偶や埴輪、動物形土製品など精神文化に関わる祭祀等に用いられたと考えられる多様な形の土製品も製作された。本展覧会では、縄文時代から古墳時代における埼玉県内の出土資料を中心に、ひと、動物、モノをかたどった考古資料を展示し、当時の人々が自分の周りの動植物やひと、モノをどのように見て、表現したのかを考える。 開催日数：46 日 展示資料：約 300 点 [関連事業] ・ 県内施設連携事業「埼玉縄文カード」の配布 ・ 展示解説 7 月 20 日 (月・祝)、 8 月 8 日 (土)、29 日 (土) ・ 展示解説 (小学生向け) 8 月 15 日 (土) ・ 体験事業「粘土ぺたぺた土版づくり」8 月 16 日 (日) ・ 「オリジナル塗り絵」の配布
「出張展示 所沢飛行場ものがたり」 令和 9 年 1 月 2 日 (土) ～ 2 月 2 1 日 (日) ※所沢航空発祥記念館が当館で実施する出張展示	日本初の飛行場、「所沢飛行場」が開設されたことから『日本の航空発祥の地』と呼ばれている所沢。明治、大正、昭和という三つの時代に渡り、気象観測所や格納庫、操縦士や整備士を育成する学校などが建てられた。日本の空を切り開く舞台となった所沢飛行場を紹介する。 開催日数：45 日 展示資料：パネルを中心に展示

(3) 令和 9 年度開催予定特別展・企画展の準備

6 生涯学習支援事業

(1) 講座・講習会等の開催

① 歴史民俗講座 (5 回)

期日：4 月 1 1 日 (土)、9 月 1 9 日 (土)、1 0 月 2 4 日 (土)、1 2 月 1 2 日 (土)、1 月 3 0 日 (土) 各日とも 14:00～15:30

対象：一般

定員：各日 150 名

② 民俗芸能講習会「江戸里神楽」(全 4 回)

期日：6 月 1 4 日 (日)、6 月 2 1 日 (日)、6 月 2 8 日 (日)、7 月 5 日 (日)

対象：一般

定員：30名

③ 民俗工芸実演

・鴻巣の赤物

期日：4月25日（土）

対象：一般

・掛軸の表具

期日：10月31日（土）

対象：一般

（2）実習・研修等の受入れ

① 博物館学芸員実習

期間：6月16日（火）～19日（金）、23日（火）～25日（木）の全7日間

定員：45名以内

② 博物館見学実習

期間：4月～3月（随時受入れ）

③ 中学生職場体験

期間：4月～3月（随時受入れ）

④ 高校生インターンシップ

期間：4月～3月（随時受入れ）

⑤ 教員研修等の受入れ

期間：4月～3月（随時受入れ）

⑥ 博物館教育利用セミナー「教員のための博物館の日」

期間：8月4日（火）

対象：教職員

定員：20名

⑦ 中高生のための博物館体験講座

期間：8月5日（水）

対象：中学2年生～高校生

定員：20名

（3）学校団体の受入れ

① 学校連携（来館対応）

期間：4月～3月（随時受入れ）

対象：小・中・高等学校、特別支援学校等

② 学校連携（出前授業）

期間：4月～3月（随時受入れ）

対象：小・中・高等学校、特別支援学校等

③ ICTを効果的に活用した学校連携（オンライン授業）

期間：4月～3月（随時受入れ）

対象：小・中・高等学校、特別支援学校等

（4）デリバリー事業等の実施

① 県政出前講座

② 講座・講演講師派遣

（5）ボランティアの受入れ

① 体験学習ボランティアの育成と運営

学校団体、まが玉・藍染めハンカチ・組紐ストラップづくりなどの体験学習指導補助

② 展示解説ボランティアの育成と運営

ボランティアによる常設展の展示解説を、開館期間中、原則毎日行う。

7 ゆめ・体験ひろば事業

(1)「ものづくり工房」通常体験メニュー

期日：4月1日（水）～3月31日（水）

対象：児童・生徒・一般（未就学児は要保護者同伴）

定員：メニューにより定員有り（事前予約「可」のメニュー有り）

- ① 藍染めハンカチ 事前予約「可」
- ② 江戸組紐ストラップ・ロングストラップ・ブレスレット 事前予約「可」
- ③ 絵馬
- ④ 歴史ぬりえ
- ⑤ ミニ絵巻物
- ⑥ まが玉 事前予約「可」
- ⑦ 浮世絵スリスリマシン
- ⑧ 季節のミニアート
- ⑨ コバトンベーゴマ ※ 販売のみ

(2)「ものづくり工房」特別体験メニュー

- ① 藍の絞り染めTシャツ作り
期日：5月21日（木）
対象：大人
定員：10名
- ② 藍の型染めミニトートバッグ作り
期日：6月11日（木）、12日（金）
対象：大人
定員：各日10名
- ③ 木版浮世絵を摺る
期日：5月27日（水）、1月29日（金）
対象：大人
定員：各日6名（各日2回実施・各回3名）
- ④ 夏休み子ども組紐教室（キーホルダー作成）
期日：7月29日（水）、8月1日（土）
対象：小学3年生～中学生（小学4年生以下は要保護者同伴）
定員：各日12名（各日2回実施・各回6名）
- ⑤ 江戸組紐体験 魚々子組のネクストラップ作り
期日：7月3日（金）
対象：大人
定員：20名
- ⑥ ミニチュア古代鏡作り
期日：1月24日（日）
対象：小学生以上（小学1～4年生は要保護者同伴）
定員：2回実施・各回8組、各組2名まで
- ⑦ 江戸組紐体験 平源氏組の帯締め作り
期日：2月19日（金）、26日（金）（要2日間受講）
対象：大人
定員：20名
- ⑧ 型付け藍染め体験
期日：2月6日（土）
対象：大人
定員：12名

(3)「昭和の原っぱ」イベント

- ① 博物館こどもまつり

射的遊び・兜をかぶる体験

期日：5月5日（火・祝）

対象：児童・生徒・一般

② ベーゴマ教室

期日：10月17日（土）

対象：小学生以上

定員：30名

③ 博物館春まつり

ポン菓子づくりの実演

期日：3月13日（土）

対象：児童・生徒・一般

（4）その他特別体験事業

① 十二単・小桂と男子装束の着装体験

期日：6月27日（土）、10月3日（土）、1月16日（土）

対象：小桂は小学生・中学生、十二単・男子装束は高校生以上

定員：各日6名

② 十二単・小桂と男子装束の着装体験（ペア申込み）

期日：7月11日（土）、12月5日（土）、3月6日（土）

対象：小桂は小学生・中学生、十二単・男子装束は高校生以上

定員：各日3組6名

③ お囃子体験教室

期日：7月25日（土） さんてこ囃子

2月27日（土） 江戸囃子

対象：児童・生徒・一般

定員：各日20名

④ 火おこし体験

期日：11月29日（日）、12月20日（日）、2月14日（日）

対象：小学生以上（小学生は要保護者同伴）

定員：各日8回実施・各回3組、各組4名まで

⑤ 甲冑の着装体験

期日：5月24日（日）、2月21日（日）

対象：小学生以上

定員：各日12名（各日4回実施・各回3名）

（5）博物館クルーの育成・活用

「ゆめ・体験ひろば」等の体験メニューや博物館の事業の運営に協力するための高度な技術を持つ人々を育成し、活用する。

（6）キッズクルーの募集

将来の埼玉文化の継承者や良き博物館利用者の育成及びゆめ・体験ひろば等における子供対象事業への参加促進を図るため、「キッズクルー」の募集を行う。

対象：中学生以下の子供

8 その他の主催事業

（1）県民の日イベント

唐破風 お囃子LIVE！2026

期日：11月14日（土・県民の日）

（2）正月臨時開館関連事業

① 「博物館でお正月」福笑い・かるた遊び

期日：1月2日（土）

② 「博物館でお正月」投扇興・かるた遊び

期日：1月3日（日）

- ③「博物館でお正月」羽根つき、絵馬パズル、独楽回し、すごろく

期日：1月2日（土）～3日（日）

- （3）博物館バックヤードツアー

普段見ることのできない博物館のバックヤードを学芸員が案内する。

原則毎月第二日曜日の午後実施（4月のみ第三日曜日） 対象：一般 定員：なし

- （4）建築見学ツアー

博物館の建築を埼玉会館のボランティアガイドが案内する。

期日：5月23日（土）

対象：一般

定員：30名

共催：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団（埼玉会館）

9 関係団体・機関との連携等

- （1）埼玉県博物館連絡協議会の運営等（会長・事務局）

① 総会・役員会・研究会・見学会等の開催

② ホームページの管理・運営

- （2）関東地区博物館協会の運営（副会長・埼玉県代表幹事館）

- （3）全国歴史民俗系博物館協議会の運営（関東ブロック幹事館）

- （4）日本博物館協会の活動（参加）

- （5）埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会との連携・交流

- （6）県政出前講座依頼の受入れ、講座・講演講師派遣

- （7）埼玉県文化財保護協会等の県内文化財関係団体との共催による講習会・研修会の開催

- （8）「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会の運営（会長・事務局）

- （9）首都圏の美術館・博物館共通入館券「ぐるっとパス2026」への参加

- （10）埼玉県訪日教育旅行誘致・受入推進協議会への参加

- （11）その他関係団体・民間企業との連携

10 広聴広報

- （1）広聴

講座・講演会・特別展等アンケートの実施

- （2）広報

① イベントガイド・ポスター・チラシほか

② 彩の国だより・県教委だより・埼玉県文化アプリ「ぶんたま」ほか

③ 新聞・雑誌・テレビ・ラジオほか

④ インターネット・SNSによる情報発信

⑤ 当館ホームページの管理・運営

⑥ イベントブース出展、自治会回覧等による地域広報

- （3）レファレンスサービス

11 各種印刷物の刊行

- （1）『紀要』第21号

- （2）展示図録等

- （3）その他

① 令和9年度イベントガイド

② 令和8年度要覧

③ 授業に役立つ博物館活用ガイド（令和9年度版）

- ④ 民俗文化財調査事業「埼玉の奉納習俗及び奉納物調査」（第Ⅰ期）調査概報Ⅰ

1 2 環境整備と施設設備の保全事業

大宮公園の風致と調和した環境の保全及び施設設備の維持管理を図り、広く県民の利用及び資料の保全に万全を期する。

令和7年度 事業報告

1 調査研究事業

分野ごとの基礎的・分類的・形態学的調査研究、展示・教育・運営等博物館活動の諸分野に関する研究、資料の収集・保存に関する技術的研究など、博物館活動の基礎となる調査研究のほか、次の事業を行った。

- (1) 常設展示資料に関する調査研究
- (2) 『紀要』第20号の編集、刊行(200部)
- (3) 文化遺産調査活用事業 無形民俗文化財調査研究事業「巡り・廻りの民俗行事」(第Ⅱ期)「玉敷神社のお獅子さま」の調査の実施、総括報告書「玉敷神社のお獅子さま」の刊行、総括映像作品「玉敷神社のお獅子さま」の制作
- (4) 次年度開催特別展に関する調査研究
- (5) 県立博物館8館合同ミュージアムフォーラム学芸員合同研究発表会への参加

2 資料の収集・保存・管理事業

常設展示や特別展示等の充実及び人文系総合博物館にふさわしい魅力あるコレクションを形成するため、資料収集基準及び資料評価会議の指導に基づき資料を収集した。

また、資料の虫菌害対策や、保存環境の整備のため、定期清掃等の総合的有害生物管理(IPM)を実施した。

(1) 資料の収集

新規受入れ資料として18件122点を収集した。

- ① 購入(12件15点)
 - ・武州騎西城絵図 1点
 - ・費氏山水画式 3点
 - ・二礼童覧(葬礼) 2点
 - ・阿部忠秋書状 1点
 - ・後醍醐天皇第三皇子大塔宮護良親王誦読於鎌倉土牢法華経図 1点(2枚続)
 - ・横井金谷筆帰去来図 1点
 - ・足軽胴(朱漆塗二枚桶側胴(剣大の字)) 1点
 - ・足軽胴(黒漆塗二枚桶側胴(十字)) 1点
 - ・蝶百種 1点
 - ・武州忍町勉強家共同広告寿娛録 1点
 - ・鳥瞰図 秩父町とその附近 1点
 - ・東武鉄道線路案内 1点
- ② 受贈(2件90点)
 - ・絵葉書 大宮 6点
 - ・大宮公園事務所関係資料 84点
- ③ 保管転換(なし)
- ④ 採集(4件17点)
 - ・埼玉県立博物館 看板 1点
 - ・埼玉県立博物館 入館券 1点
 - ・旧埼玉県立文化会館関係資料 8点
 - ・大宮盆栽村100周年記念事業関連資料 7点

(2) 資料の整理・保存・管理

① 資料管理

- ・ I P M推進委員会の開催 4月11日(金)、令和8年3月3日(火)
- ・ 収蔵庫定期清掃 月2回(原則第2・4木曜日)
- ・ 有害生物生息状況調査(館内、嵐山史跡の博物館、文化財収蔵施設) 月1回(原則月末火曜日)
- ・ 収蔵庫ほか忌避剤散布 6月 5日(木)～ 6日(金)
9月 8日(月)～ 9日(火)
- ・ 搬入展示資料等の燻蒸 8月23日(土)～24日(日)
- ・ 減圧滅菌装置の改修 12月 8日(月)～11日(木)
- ② 嵐山史跡の博物館・文化財収蔵施設等に所在する当館所蔵の民俗資料の管理
 - ・ 収蔵庫定期清掃 7回
 - ・ 有害生物生息状況調査 月1回(原則月末水曜日)
- ③ 資料の修理
 - ・ 「絹本着色阿弥陀三尊来迎図」 1幅
 - ・ 小倉青於筆「紙本淡彩出山釈迦図」 1幅
 - ・ 「刀 銘(葵紋)和泉守来金道」 1振
 - ・ 「脇指 武州住法城寺橋国吉」 1振
 - ・ 「刀 銘(葵紋)近江守源久道」 1振
- (3) 資料の貸出、特別利用(フィルム等の貸出、資料の熟覧等)
 - ① 貸出 すみだ北斎美術館、米沢市上杉博物館ほか 16件(131点)
 - ② 特別利用 NHKエンタープライズ、吉川弘文館ほか 96件(487点)

3 常設展示事業

「埼玉における人々の暮らしと文化」をメインテーマに、総合的な視野で時代の推移が理解できる展示に努めた。また、調査や研究に基づく展示替えや特別公開などにより、展示内容の充実を図った。

(1) 展示替え

① 考古展示(第1室)

「縄文人と豊かな植物資源」 7月15日(火)～令和8年7月12日(日)

② 美術展示(第4室)

「ほとけを飾る」 3月11日(火)～ 5月11日(日)

「浮世絵できるかな」 5月13日(火)～ 6月 1日(日)

「亀のまにまに」 6月10日(火)～ 9月21日(日)

「人をうつす」 9月23日(火・祝)～12月14日(日)

「武士の美術」 12月16日(火)～ 令和8年3月 8日(日)

③ 歴史特集展示

第9室「埼玉の自然と人々の営み」 3月11日(火)～ 6月 1日(日)

第9室「タイムスリップ1925」 6月10日(火)～ 11月16日(日)

第9室「選挙と議会」 11月18日(火)～ 令和8年3月8日(日)

第3室「国宝太刀・短刀の公開」 令和8年1月27日(火)～ 3月 1日(日)

④ 民俗コラム展示(第10室)

「印半纏」 3月18日(火)～ 6月 1日(日)

「藍の型染め」 6月10日(火)～ 10月26日(日)

「馬と祈り」 10月28日(火)～ 令和8年3月15日(日)

④ 季節展示(季節展示室)

特別展・企画展の関連展示や時宜に合ったテーマの小展示などを実施した。

「水にまつわる鐺」	5月10日(土)～6月1日(日)
「食欲の秋～魚瀧商店資料から見る食～」	9月6日(土)～10月5日(日)
「銘仙に見る季節」	11月29日(土)～12月21日(日)

⑤ 定例展示替え

毎月第3月曜日を目安に展示替えを実施。

(2) 国宝・重要文化財の公開

国宝	法華経一品経(ときがわ町・慈光寺)	3月11日(火)～5月11日(日)	第4展示室
国宝	太刀	令和8年1月27日(火)～3月1日(日)	第3展示室
国宝	短刀	令和8年1月27日(火)～3月1日(日)	第3展示室
重文	大般若経(日高市・高麗神社)	3月11日(火)～6月1日(日)	第3展示室
重文	銅造阿弥陀如来立像(神川町・光明寺)	令和8年2月17日(火)～5月10日(日)	第4展示室
重文	絹本着色高野明神像・丹生明神像(越生町法恩寺)	令和8年3月10日(火)～4月26日(日)	第4展示室
重文	絹本着色釈迦三尊及阿難迦葉像(越生町・法恩寺)	4月15日(火)～5月11日(日)	第4展示室
		12月16日(火)～令和8年2月1日(日)	第4展示室
重文	雲版(飯能市・長光寺)	10月21日(火)～12月14日(日)	第3展示室
重文	三十六歌仙額(川越市・仙波東照宮)	9月23日(火・祝)～12月14日(日)	第4展示室
重文	紙本着色伝貞巖和尚像(久喜市・甘棠院)	9月23日(火・祝)～12月14日(日)	第5展示室
重文	阿弥陀聖衆来迎図(熊谷市・常光院)	3月11日(火)～4月13日(日)	第4展示室
		令和8年3月14日(土)～5月6日(水・振休)	特別展示室
重文	刀 無銘 伝助真(さいたま市・龍門寺)	10月11日(土)～11月24日(月・振休)	特別展示室

(3) 重要有形民俗文化財の展示

重民	北武蔵の農具	4月1日(火)～令和8年3月31日(火)	第10展示室
----	--------	----------------------	--------

4 特別展・企画展等

当館の主催により、特定のテーマに基づいて資料を収集・構成し、特色ある特別展・企画展等を開催した。

(1) 特別展「はたらく装いのフォークロア」

期 日 令和7年3月15日(土)～5月6日(火・振休)

趣 旨 四方を海に囲まれ、豊かな山林や肥沃な大地に抱かれた日本では、人びとはさまざまな環境で農耕、狩猟、漁撈などに励んできた。その際に身に着けた衣服や用具からは、はたらくための実用的な工夫やさりげない美意識をうかがうことができる。仕事着はそれ自体がコレクションとして、または生産用具のコレクションに含まれる形で収集が行われてきた。本展では国の重要有形民俗文化財「北武蔵の農具」、「秩父の山村生産用具」、「房総半島の漁撈用具」、「大森及び周辺地域の海苔生産用具」を中心に関連資料を紹介した。

展示資料総数 199点

開館日数 47日（令和6年度 15日）

会期中観覧者 3,692名（令和6年度 1,022名）

[関連事業]

- ・記念講演会 「モノとしての衣、コトとしての衣ー「房総半島の漁撈用具」を例としてー」

期 日 4月26日（土）

講 師 小島 孝夫 氏（成城大学文芸学部教授・民俗学研究所所長）

参加者 75名

- ・歴史民俗講座「はたらく装いのモノがたり」

期 日 4月12日（土）

講 師 佐藤 夏美（当館学芸員）

参加者 49名

- ・展示解説

期日・参加者 3月16日（日） 参加者 13名

3月29日（土） 参加者 19名

4月 5日（土） 参加者 15名

5月 6日（火・振休） 参加者 49名

- ・体験講座「綿から糸をつくってみよう」

期 日 3月22日（土）

講 師 平山 由喜 氏

参加者 午前：8名 午後：8名

(2) 大宮駅開業・大宮公園開園140年 企画展「名所 大宮ー鉄道のまち・公園のまちー」

期 日 令和7年7月12日（土）～8月31日（日）

趣 旨 令和7年（2025）は、明治18年（1885）に大宮駅及び大宮公園（氷川公園）が開業して140周年となる節目の年であったことから本展を企画した。江戸時代まで、武蔵一宮氷川神社の境内地と大宮宿を中心としていたこの地域は、駅と公園の誕生によってその後の歩みを大きく変化させた。その後、大宮はこれらを中心に発展を続け、鉄道のまち、文化・スポーツの中心地として現在まで親しまれている。本展では、明治時代以降の大宮駅・大宮公園を中心に、地域の歩みと魅力を紹介した。

展示資料総数 136点

開館日数 47日

会期中観覧者 7,096名

[関連事業]

- ・鉄道整備の現場を見にいこう！大宮工場見学

期 日 8月13日（水）

講 師 大宮総合車両センター 目黒 美恵子 氏

費 用 無料

会 場 JR東日本大宮総合車両センター

参加者 17名

- ・写真募集企画「みんなの名所 大宮 フォト&エピソード」（応募写真のパネル展示）

募集期間 5月20日（火）～7月31日（木）

展示場所 季節展示室

展示点数 43点

- ・ワークシート配布「大宮自由研究」

配布期間 企画展開催期間中

配布場所 季節展示室 設問 特別展示室内

配 布 数 3種類配布 計3,237枚

- ・関連スポット散策マップ掲示・配布

配布期間 8月16日（土）～8月31日（日）

配布方法 ホームページにてPDFファイルで配布

・展示解説

期日・参加者	7月20日(日)	参加者	44名
	7月27日(日)	参加者	38名
	8月3日(日)	参加者	42名
	8月24日(日)	参加者	54名

(3) 特別展「大名と菩提所」

期日 10月11日(土)～11月24日(月・振休)

趣旨 江戸時代の埼玉県域には忍・岩槻・川越に城郭が存在し、いずれも江戸近郊の要所の守りを固めるため、城主には幕府の要職に就いた譜代大名らが任ぜられた。これら大名の菩提所や墓の在り方は「家」ごとに異なる様相を呈した。本展では260余年の泰平の世を支えた大名が眠る菩提所に注目し、埼玉県域ゆかりの大名の菩提所を紹介した。

展示資料総数 204点

開館日数 41日

会期中観覧者 5,947名

[関連事業]

・記念講演会「埼玉の大名墓所」

期日 11月8日(土)

講師 池上 悟 氏(立正大学名誉教授)

参加者 120名

・落語会「笑いと吊い」

期日 11月16日(日)

出演 桂伸衛門師匠(落語芸術協会)

参加者 107名

・歴史民俗講座「大名のお墓とお葬式」

期日 10月25日(土)

講師 黒田 千尋(当館学芸員)

参加者 119名

・展示解説

期日・参加者	10月13日(月・祝)	参加者	39名
	10月26日(日)	参加者	27名
	11月1日(土)	参加者	30名
	11月24日(月・振休)	参加者	71名

(4) 「収蔵品展 太平記をよむ」

期日 令和8年1月2日(金)～2月23日(月・祝)

趣旨 太平記の諸本を中心に、太平記の物語に関連する周辺資料を展示し、太平記の世界の一端を紹介する。

展示資料総数 32点

開館日数 47日

(5) 特別展「埼玉の宝物～人々が守り伝えた文化財～」

期日 令和8年3月14日(土)～5月6日(水・振休)

趣旨 平成18年4月に当館の前身である埼玉県立博物館と埼玉県立民俗文化センターが統合し、令和8年4月で20周年を迎えるのを記念し、県内に所在する国・県指定文化財のうち平成11年度以降に指定された文化財を展示した。

展示資料総数 342点

開館日数 48日(令和7年度 16日)

[関連事業] (令和7年度)

・展示解説

期日・参加者 3月22日(日) 参加者 49名

5 生涯学習支援事業

(1) 講座・講習会等の開催

① 歴史民俗講座

- ・「はたらく装いのモノがたり」
期 日 4月12日(土)
講 師 佐藤 夏美(当館学芸員)
参加者 49名
- ・「旧石器時代の物づくり@埼玉」
期 日 9月 6日(土)
講 師 尾崎 沙羅(当館学芸員)
参加者 87名
- ・「大名のお墓とお葬式」
期 日 10月25日(土)
講 師 黒田 千尋(当館学芸員)
参加者 119名
- ・「『太平記』にみる武蔵武士」
期 日 1月17日(土)
講 師 駒見 敬祐(当館学芸員)
参加者 133名
- ・「江戸時代の豪商―商人の盛衰と大名貸―」
期 日 2月21日(土)
講 師 大橋 毅顕(当館主任学芸員)
参加者 107名

② 民俗芸能講習会「秩父屋台囃子」

期 日 6月22日(日)、29日(日)、7月6日(日)、7月13日(日)全4回
受講者 37名(延べ127名)

③ 民俗工芸実演

- ・こぎん刺し
期 日 4月29日(火・祝)
講 師 長田 朝子 氏
参加者 64名
- ・わらで作る正月飾り
期 日 11月22日(土)
講 師 加須わら細工保存会 松本 勝男 氏 田島 美江子 氏
参加者 61名

④ 第15回学芸員合同研究発表会ミュージアムフォーラム

期 日 1月31日(土)
講 師 尾崎 沙羅(当館学芸員)「埼玉の旧石器研究～1万6千年より前の埼玉～」
中島 萌(当館学芸員)「近世の墓地遺跡」
佐藤 夏美(当館学芸員)「住まいが語る暮らしの記憶―文化財の住宅に見る保存のかたち」
参加者 77名

(2) 実習・研修等の受入れ

① 博物館学芸員実習

青山学院大学など23大学等 37名

② 博物館見学実習

成城大学など8大学 155名

③ 中学生職場体験

さいたま市立大宮北中学校など6校64名（延べ） 延べ17日間

④ 高校生インターンシップ

上尾かしの木特別支援学校大宮商業分校22名（延べ） 延べ6日間

⑤ 大学生インターンシップ

受入れなし

⑥ 教員向け研修の受入れ（教育利用セミナー等）

・特別支援学校5年経験者研修 ※県立総合教育センターの主催

7月29日（火） 参加者1名

・博物館教育利用セミナー「教員のための博物館の日」

8月4日（月） 参加者16名

・高等学校初任者研修（教科別・地歴公民） ※県立総合教育センターとの共催

9月3日（水） 参加者24名

・高等学校5年経験者研修 ※県立総合教育センターの主催

12月26日（金） 参加者1名

⑦ その他研修の受入れ

なし

⑧ 中高生のための博物館体験講座

8月5日（火） 参加者23名

（3）学校団体の受入れ

① 学校連携（来館対応）

小学校69校（特別支援学級2を含む）、中学校11校（特別支援学級10を含む）、高等学校1校、特別支援学校3校、保育園1園、その他学校関係7団体（教育センター6、インターナショナルスクール1）

計92校

② 学校連携（出前授業）

幸手市立行幸小学校など40件（教育センター2を含む） 参加者2,454名

③ オンライン授業

埼玉県立上尾かしの木特別支援学校など4件 参加者82名

（4）デリバリー事業等

① 県政出前講座

なし

② 講座・講演講師派遣

熊谷市立熊谷図書館、東松山市きらめき市民大学など14件 参加者892名

（5）ボランティアの受入れ

① ボランティア活動、養成講座

ア ボランティア活動

・体験学習ボランティア 75名登録

学校団体、まが玉・藍染めハンカチ・組紐ストラップづくりなどの体験学習指導補助

延べ活動日数 314日 延べ活動人数 1,783名

・展示解説ボランティア 63名登録

常設展の展示解説を開館期間中実施した。

延べ活動日数 262日 延べ活動人数 1,144名

イ ボランティア研修

ボランティア養成のための専門的講座及び実践的な研修を実施した。

体験学習ボランティア 延べ開催日数 28日 延べ参加人数 338名

展示解説ボランティア 延べ開催日数 11日 延べ参加人数 242名

6 ゆめ・体験ひろばの運営

それぞれ特色のある機能と設備を持つ4つのエリアで、地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様な体験プログラムを、子どもから高齢者、初心者からリピーターまでさまざまな参加者を対象に実施している。

(1)「ものづくり工房」通常体験メニュー

① 藍染めハンカチ	2, 388名	
② 江戸組紐ストラップ等	858名	
③ 絵馬	92名	
④ 歴史ぬりえ	54名	
⑤ ミニ絵巻物	318名	
⑥ まが玉	2, 035名	
⑦ 浮世絵スリスリマシン	483名	
⑧ 季節のミニアート	578名	
⑨ コバトンベゴマ	40名	※ 販売のみ
合計	6, 846名	

(2)「ものづくり工房」特別体験メニュー

① 木版浮世絵を摺る		
期 日	5月28日(水)	参加者 6名
期 日	12月19日(金)	参加者 6名
② 藍の型染めミニトートバッグ作り		
期 日	7月3日(木)	参加者 10名
期 日	7月4日(金)	参加者 10名
③ ミニチュア古代鏡作り		
期 日	1月25日(日)	参加者 38名
④ 藍の絞り染めTシャツ作り		
期 日	5月29日(木)	参加者 9名
⑤ 夏休み子ども組紐教室(キーホルダー作成)		
期 日	7月19日(土)	参加者 13名
期 日	7月23日(水)	参加者 12名
⑥ 江戸組紐体験 笹波組のネクストラップ作り		
期 日	7月18日(金)	参加者 20名
⑦ 江戸組紐体験 浪路組の帯締め作り(要2日間受講)		
期 日	2月13日(金)、20日(金)	参加者 29名(延べ)
⑧ 型付け藍染め体験一てぬぐい作りー		
期 日	2月14日(土)	参加者 12名
⑨ 冬休み子ども組紐教室(キーホルダー作成)		
期 日	12月27日(土)	参加者 4名
期 日	1月 7日(水)	参加者 12名

(3)「昭和の原っぱ」イベント等

① 博物館こどもまつり		
期 日	5月5日(月・祝)	参加者 216名
② ベーゴマ教室		
期 日	10月18日(土)	参加者 31名
③ 博物館春まつり		
期 日	3月7日(土)	参加者 362名

(4) その他の特別体験事業

① 十二単・小桂と男子装束の着装体験		
期 日	6月14日(土)	参加者 6名

- | | | | |
|---------------------------|-----------|--------|--------|
| 期 日 | 10月25日(土) | 参加者 | 6名 |
| 期 日 | 1月31日(土) | 参加者 | 6名 |
| ② 十二単・小桂と男子装束の着装体験(ペア申込み) | | | |
| 期 日 | 7月12日(土) | 参加者 | 6名 |
| 期 日 | 12月13日(土) | 参加者 | 6名 |
| 期 日 | 3月14日(土) | 参加者 | 6名 |
| ③ 火おこし体験 | | | |
| 期 日 | 4月19日(土) | 参加者 | 28名 |
| 期 日 | 12月6日(土) | 参加者 | 74名 |
| 期 日 | 2月14日(土) | 参加者 | 61名 |
| ④ お囃子体験教室 | | | |
| 期 日 | 7月26日(土) | さんてこ囃子 | 参加者28名 |
| 期 日 | 3月7日(土) | 江戸囃子 | 参加者39名 |
| ⑤ 甲冑の着装体験 | | | |
| 期 日 | 6月28日(土) | 参加者 | 12名 |
| 期 日 | 1月18日(日) | 参加者 | 12名 |

7 その他の主催事業

- (1) 県民の日イベント「唐破風お囃子 LIVE!2025」
期 日 11月14日(金) 参加者 398名
- (2) 正月臨時開館関連事業「博物館でお正月」
- ①「正月遊び」福笑い、かるた遊び
期 日 1月2日(金) 参加者 167名
- ②「正月遊び」投扇興、かるた遊び
期 日 1月3日(土) 参加者 91名
- ③「正月遊び」羽根つき、絵馬パズル、独楽回し、すごろく
期 日 1月2日(金)～1月3日(土)
- ④県立大宮光陵高校書道科の生徒による揮毫の展示
期 日 1月2日(金)～1月8日(木)
- ⑤「お正月キーワードラリー」常設展示室内をめぐりキーワードの答えを探す。
期 日 1月2日(金) 参加者 61名
1月3日(土) 参加者 100名
- ⑥「お正月フォトスポット」の設置(2か所)
期 日 1月2日(金)～1月3日(土)
- ⑦解説イベント
- ・収蔵品展「太平記をよむ」解説会 期 日 1月2日(金) 参加者 18名
 - ・博物館バックヤードツアー 期 日 1月3日(土) 参加者 28名
- (3) 博物館バックヤードツアー
原則、毎月第二日曜日に博物館のバックヤードを紹介 10回 参加者 118名
- (4) 建築見学ツアー
博物館の建築を埼玉会館のボランティアガイドが案内
期 日 6月14日(土)
参加者 28名
共 催 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団(埼玉会館)

8 関係団体・機関との連携等

- (1) 埼玉県博物館連絡協議会(会長)・運営等(事務局)

- ① 総会・役員会・見学会・研究会等の開催
- ② 「埼玉県博物館連絡協議会 加盟館園マップ」の作成（１５，０００部）
- ③ ホームページの管理・運営
- （２） 関東地区博物館協会の運営等（副会長・埼玉県代表幹事館）
 - ① 総会、理事会、研究会出席
 - ② 埼玉県内加盟館との連絡・調整
- （３） 全国歴史民俗系博物館協議会の運営（関東ブロック幹事館）
 - 総会、幹事館会への参加
- （４） 日本博物館協会（参与）
 - ① 全国博物館大会等への参加
 - ② 「博物館研究」令和８年２月号の原稿執筆
- （５） 「博物館友の会」との連携
 - ① プレミアム講座への講師派遣
 - ・「大宮 ～駅と公園から地域の歩みを振り返る～」
 - 期 日 ７月２９日（火）
 - 講 師 木村 遼之（当館学芸員）
 - 参加者 ６０名
 - ・「日光道中４００年～家康の霊廊へと続く道：日光道中・日光御成道と埼玉の諸宿～」
 - 期 日 １１月２５日（火）
 - 講 師 山田 拓実（当館学芸員）
 - 参加者 ４８名
 - ・「なぜ“復活”できたのか？～祭礼・行事の中断と再開を考える～」
 - 期 日 １月２８日（水）
 - 講 師 川邊 絢一郎（当館学芸員）
 - 参加者 ２７名
 - ② 当館開催事業への友の会スタッフ派遣
 - ・県民の日、正月開館の各イベント
- （６） 「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会による連携事業の実施
 - ・第１回ウォーキングツアーの実施
 - 期 日 １１月８日（土）
 - 参加者 ９名
 - ・第２回ウォーキングツアーの実施
 - 期 日 １１月１６日（日）
 - 参加者 ３名
 - ・合同連携イベント「盆栽展示」
 - 期 日 １０月１１日（土）～１３日（月・祝）
 - ・「大宮第二公園防災秋まつり（第３回大宮公園防災車中泊&キャンプ Fes. /次世代につなぐ大宮公園検討グループ主催）」でのブース出展、チラシの配布、けん玉体験による PR 活動
 - 期 日 １１月２日（日）、３日（月・祝）
 - ・スタンプラリーの実施
 - 期 日 １２月１２日（金）～２月１日（日）
- （７） ミュージアムカレッジ２０２５「死と生 歴史・美術・考古・民俗からみる人の節目」
 - ※埼玉大学と共催
 - ・第１回「近世日本の大名墓・天皇墓」
 - 期 日 １０月１７日（金）
 - 講 師 井上 智勝（埼玉大学大学院教授）
 - 参加者 １１５名
 - ・第２回「あの世へ行く者、送る者―臨終と葬送の美術―」
 - 期 日 １０月３１日（金）

講 師 西川 真理子（当館学芸員）

参加者 103名

・第3回「遊牧世界の墓」

期 日 1月9日（金）

講 師 中村 大介（埼玉大学大学院教授）

参加者 105名

・第4回「民俗事例からみる死／生」

期 日 1月30日（金）

講 師 川邊 絢一郎（当館学芸員）

参加者 101名

（8）連携事業等

- ・埼玉県訪日教育旅行誘致・受入推進協議会への参加
- ・首都圏の美術館・博物館共通入館券「ぐるっとパス2025」への参加
- ・Japan Cultural Passport（日本博周遊券）への参加

（9）その他事業の共催

① 文化財講習会

共催団体 埼玉県文化財保護協会

期 日 7月31日（木）、8月1日（金）

参加者 89名

② 文化財レスキュー・防災研修会

共催団体 埼玉県文化財保護協会、埼玉県地域史料保存活用連絡協議会

期 日 2月13日（金）

参加者 30名

9 広聴広報

（1）広聴

- ① 特別展・企画展等のアンケートの実施
- ② 博物館利用者アンケートの実施
利用者アンケートの結果をフィードバック

（2）広報

- ① 当館刊行物、県刊行物による広報のほか、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等による広報を積極的に行うとともに、インターネット・SNSによる情報発信を行った。
- ② 「大盆栽まつり」、「大宮区民ふれあいフェア」、「西区ふれあいまつり」、「大宮第二公園防災秋まつり」にブース出展し、パンフレットの配布などの広報活動を行った。
 - ・大盆栽まつり 5月3日（土）～5日（月・祝）
 - ・大宮区民ふれあいフェア 10月25日（土）
 - ・西区ふれあいまつり 11月8日（土）
 - ・大宮第二公園防災秋まつり（第3回大宮公園防災車中泊&キャンプ Fes. /次世代につなぐ大宮公園検討グループ主催）11月2日（日）、3日（月・祝）

（3）レファレンスサービス（193件）

博物館の利用に関する相談、埼玉の歴史・考古・民俗・美術に関する学習相談、情報提供、特別展・企画展・常設展の内容等照会、体験学習の指導・助言等の実施。

10 令和7年度印刷刊行物等一覧

※〔 〕内は販売価格。記載のないものは無料配布

- （1）紀要第20号〔1, 800円〕 200部
- （2）展示図録等
特別展「大名と菩提所」図録〔1, 300円〕 1, 600部

特別展「埼玉の宝物～人々が守り伝えた文化財～」図録 [1, 600円]	1, 200部
企画展「名所 大宮―鉄道のまち・公園のまち―」ブックレット [700円]	1, 200部
常設展示解説リーフレット (10種類)	58, 500部
企画展「名所 大宮―鉄道のまち・公園のまち―」サコッシュ [600円]	500個
特別展「大名と菩提所」お香 [800円]	100個
収蔵資料展「太平記をよむ」リーフレット	1, 000部
特集展示「国宝太刀・短刀の公開」国宝短刀「謙信景光」チケットホルダー [300円]	1, 000部
特集展示「国宝太刀・短刀の公開」太刀アクリルキーホルダー [700円]	200個
特集展示「国宝太刀・短刀の公開」短刀アクリルキーホルダー [700円]	250個
(3) 令和8年度イベントガイド	25, 000部
(4) 令和7年度博物館要覧	95部
(5) 授業に役立つ博物館活用ガイド (令和8年度版)	7, 000部
(6) 無形民俗文化財調査事業「巡り・廻りの民俗行事」総括報告書Ⅱ [2, 100円]	500部

1 1 環境整備と施設設備の保全事業

大宮公園の風致と調和した環境の保全及び施設設備の維持管理を図り、広く県民の利用及び資料の保全に万全を期した。

- (1) 防災訓練 6月11日 (水)
- (2) 防犯訓練 12月 3日 (水)
- (3) 自家用電気工作物電気保安検査 11月10日 (月)
- (4) 施設設備の保守業務委託、小破修繕の実施

令和7年度 利用者数

	開館 日数	利用者 合計 (A+B)	入館者数(A)					入場者数 (D)	館外 活動 (B)	
			合計 (C+D)	展示室観覧者(C)			小計			
				合計 (E+F)	有料(E)					無料(F)
					小計	観覧料				小計
	日	人	人	人	人	円	人	人	人	
4月	26	10,077	10,077	2,504	1,680	720,600	824	7,573		
5月	28	9,094	8,789	2,492	1,798	627,200	694	6,297	305	
6月	19	5,528	5,336	1,417	918	257,850	499	3,919	192	
7月	28	7,493	7,328	3,092	2,076	696,150	1,016	4,236	165	
8月	29	10,253	10,123	5,174	3,441	1,223,550	1,733	4,949	130	
9月	25	6,389	6,308	2,513	1,236	339,500	1,277	3,795	81	
10月	28	9,844	9,448	3,778	1,836	764,000	1,942	5,670	396	
11月	28	11,817	11,193	5,170	2,536	1,078,750	2,634	6,023	624	
12月	24	4,115	4,035	1,957	1,062	296,450	895	2,078	80	
1月	27	11,068	10,742	3,563	2,165	582,450	1,398	7,179	326	
2月	25	16,157	15,189	4,730	3,681	998,900	1,049	10,459	968	
3月	27	15,048	14,562	3,481	2,473	1,047,800	1,008	11,081	486	
年度計	314	116,883	113,130	39,871	24,902	8,633,200	14,969	73,259	3,753	

(C)の参考		(D)の参考	
常 設 展 観覧者数	特別展 企画展 観覧者	講座等 参加者	ゆめ・体験ひろ ば入場者
人	人	人	人
717	1,787	350	2,608
1,609	883	347	2,019
1,417	-	144	1,125
761	2,331	358	1,820
409	4,765	205	2,403
2,513	-	102	2,378
1,351	2,427	498	2,708
1,650	3,520	1,364	3,760
1,957	-	75	1,861
3,563	-	870	3,113
4,730	-	738	2,190
1,487	1,994	538	3,156
22,164	17,707	5,589	29,141

※1 館外活動(B)の主な内訳…出前授業や県政出前講座

※2 入場者数(D)の主な内訳…無料スペースを訪れた数、ゆめ体験参加者、講座等参加者

展示概要等

■屋外展示

館庭は縄文時代と弥生時代の遺跡で、一部が県指定史跡となっている。発掘調査の成果をもとに弥生時代の竪穴住居を復元しており、その背後にある方形周溝墓は弥生時代後期の有力者の墓である。

■常設展示—埼玉における人々の暮らしと文化—

常設展示のメインテーマは「埼玉における人々の暮らしと文化」である。歴史を常に庶民の立場から見ていくという思想で貫き、庶民の力強さをダイナミックに表現することを基本姿勢としている。また、「見せる博物館」から「見る博物館」へ、「教える博物館」から「自ら学ぶ博物館」へをタッチフーズに、資料や研究データを通して観覧者と博物館が共に考えていこうという展示構成となっている。

プロローグ 大地に読む歴史

エントランスロビーの天井に届くようにそびえるのは、さいたま市大宮区の寿能泥炭層遺跡で確認された土層の模式断面である。各時代の遺物が出土状況に合わせてはめこまれ、各層の年代と各展示室で展開される展示内容とが対比できる歴史年表となっている。各展示室の入口には、この土層の断面をデザイン化した色別のパネルがあり、観覧の時間軸として利用できるようになっている。

第1展示室 旧石器～弥生時代

常設展示のはじまりは、埼玉の地にいつから人類が住み始めたかを考えるコーナーである。武蔵野台地や大宮台地を中心とした遺跡や出土遺物から旧石器文化を紹介する。内陸深く入りこんだ“奥東京湾”の周辺から出土した土器・漆器・木製品などから縄文人の暮らしを表現している。大陸から伝えられた稲作や新たな技術はやがて東国にも達する。コメづくりのムラが営まれ、ムラとムラをたばねる首長が成長していく弥生時代を、東日本の出土遺物の比較や方形周溝墓などから表現している。

第2展示室 古墳時代

古墳時代は、ヤマト王権が生んだ前方後円墳などの大きな墓が日本列島の広い範囲を覆う交流関係のなかで展開する。埼玉県域でも3世紀中ごろには古墳が出現する。古墳時代中期には埼玉古墳群（特別史跡）が築造されるが、最初に築かれた稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣（国宝）にはワカタケル大王（雄略天皇）に仕えた武人の歴史が記されている。ここからは、埼玉県域を含む東国がヤマト王権の軍事的基盤として重視されていたことがわかる。また、古墳時代には農具や、馬の導入がはかられ、技術の革新が進んだ時代であったことを伝える。

第3展示室 奈良～南北朝時代

「武蔵武士」を基本テーマとする。ここではまず、考古資料を用いて、律令制下における支配や人々の暮らしに関する展示を行う。平安時代に地方支配が動揺すると、各地で武装した領主層が台頭し始める。こうしたなか、県域では武蔵武士が登場する。その台頭過程や活躍ぶり、信仰や日常生活の様子などについて、工芸品・絵巻物・古文書・発掘資料などを使って紹介する。

第4展示室 美術展示室

埼玉県の歴史の流れ（通史）の中では紹介しきれない優れた美術工芸品を、「博物館の中の小さな美術館」である本室で集中的に紹介する。様々な作品を通して美の世界の広がり提示する。

第5展示室 室町～戦国時代

室町・戦国時代の北武蔵では、室町幕府と鎌倉府、戦国大名などの間で戦乱が繰り返された。ここでは、こうした「乱世」を生きた人々の姿をクローズアップする。歴史を彩る武将を輩出した古河公方足利氏・太田氏・北条氏・上杉氏の4家について、工芸品・古文書などを用いて紹介するとともに、

この時代の戦争を特徴づけた「足軽」と呼ばれる雑兵についても展示を行う。あわせて、中世における人々の暮らしと文化も紹介する。

第6展示室（展示ホール） 板碑

鎌倉から戦国時代末期にかけて盛んにつくられた板碑には、長い戦乱の中で暮らした人々の多くの願いが込められている。荒川上流で産出する緑泥石片岩を用いた武蔵の板碑は質量ともに全国一を誇り、武蔵武士の名が刻まれているものもある。ここでは、それらの中から我が国最大・最小のもの、最古のものをはじめ、県内の代表的な板碑を紹介している。また、ときがわ町の慈光寺の開山塔は、室町時代初期の建築様式を伝える我が国現存最古の木造宝塔といわれており、その復原資料を展示している。

第7展示室 江戸時代Ⅰ

江戸幕府のお膝元となった埼玉県域における支配の特色を、大名・旗本などの領主とその村支配の在り方、交通・宗教・文化などの制度を通して紹介する。領主については、川越・忍（行田）・岩槻・岡部に配置された大名と旗本に関する資料や城の模型を中心に展示している。村の支配については、年貢制度や、鷹場、日常生活の規制などを高札や古文書により表現している。また、中山道や日光道中、利根川に設けられた関所の様子、幕府の寺院統制やキリシタン禁制、学芸、民間信仰などを取り上げている。

第8展示室 江戸時代Ⅱ

江戸時代の埼玉は、河川改修や用水路等の整備などにより、耕作地が増えて米の収穫量が増大した。そして、河川交通の発達とともに、各地で地場産業が盛んとなり、商品作物も作られるようになった。こうした様子は見沼代用水構造図や高瀬船模型・藍玉・紅餅・茶甕・古文書などを通して紹介している。また、幕藩体制が大きくゆらぎはじめる幕末の様子は、黒船来航や和宮下向、武州一揆などの資料によって紹介している。

第9展示室 明治時代～現代

明治期の埼玉は、政府の富国強兵の方針のもとでの殖産興業政策により、地場産業の近代化と産業基盤の整備を推進した。大正・昭和戦前期になると、大衆運動が盛り上がりを見せたが、昭和恐慌を契機にやがて長い戦争へと突入していき、県民・県土は疲弊した。敗戦後の埼玉は、産業・経済の復興をなしとげ、内陸型の工業県として目覚ましく発展した。ここでは、近現代埼玉の歩みを行政・産業・経済を中心に紹介するとともに、暮らしの変化の様子や、埼玉の地場産業なども取り上げている。

第10展示室 民俗展示室

民俗展示室は令和5年10月に全面的な展示替えを行い、「火と暮らし」というテーマで埼玉県における「火にまつわる民俗」を紹介している。展示は、「山の暮らし」「里の暮らし」「都市の暮らし」「現代の暮らしと火」の4部構成となっている。それぞれの地域・時代の暮らしと火とのかかわりについて、生業や祭り、火災に関する資料などを展示している。また、ミニテーマを設けて展示替えを行うコラム展示や、往時の農家の雰囲気再現した「農家のいろり」コーナーもある。

■特別展示室

企画テーマに沿った特別展などを開催する展示室である。年数回の特別展・企画展を開催し、毎回好評を博している。企画の内容は、より広い視点から埼玉の歴史と文化を比較・理解できるよう、県内だけではなく、関東あるいは全国を対象を広げてテーマを設定している。

■季節展示室

この展示室は、常設展示室と特別展示室を結ぶ場所に位置している。窓から野外の竹林・石灯籠を眺めることができ、安らぎの場となっている。小さな特集展示や収蔵品展を開催するほか、特別展の

サブ展示室としても活用される。

■ゆめ・体験ひろば

「ゆめ・体験ひろば」は、世代間交流ができる体験学習施設で、それぞれに特色ある機能と設備を持つ4つのエリアで構成されており、地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様なプログラムを提供している。

第1エリア 自由自在座

入館者が多様なハンズオン展示装置を自由に選択し、自在に楽しむ体験展示として、浮世絵版画の工程を体験する「浮世絵スリスリマシン」、歌舞伎などで用いられる擬音楽器を使って楽しむ「日本の音で遊ぼう」、江戸時代の提灯や行灯をのぞき窓から覗く「灯りの今昔」、ヒモを引いて目や口を動かし複雑な仕掛けを理解する「人形芝居」などを設置している。

また、「昔のくらしと道具」のブースは、昭和30年代の農村の住居・町の住居の食卓や道具などの展示を見ながら、昔の生活道具を学べるコーナーとなっている。

第2エリア 学び文庫

本棚には、埼玉県にまつわる本や図録、歴史・民俗・芸術に関する一般書籍、子ども向けの学習まんがなどが並んでおり、調べ学習のための参考図書をゆったり閲覧することができる。開館時間中はいつでも利用できる。

第3エリア ものづくり工房

「ものづくり工房」では、郷土に伝わる伝統文化のわざとところを、体験を通して学ぶことができ、藍染めや江戸組紐といった伝統工芸や地場産業をテーマとしたものづくりメニューを、常時数種類体験することができる。通常体験メニューとは別に、藍染めストールや江戸組紐帯締めなど、成人対象の本格的な特別体験メニューも提供している。

第4エリア 昭和の原っぱ

屋外広場に、木製電柱や土管、ホーロー看板やスバル360などのディスプレイにより、昭和30～40年代のロケーションを再現したエリアが「昭和の原っぱ」である。

ここでは、ベーゴマやけん玉、フラフープといった昔懐かしい遊び体験コーナーや駄菓子屋を常設するとともに、季節に応じて、「射的遊び」や「ポン菓子作り実演」などのノスタルジックイベントも開催する。

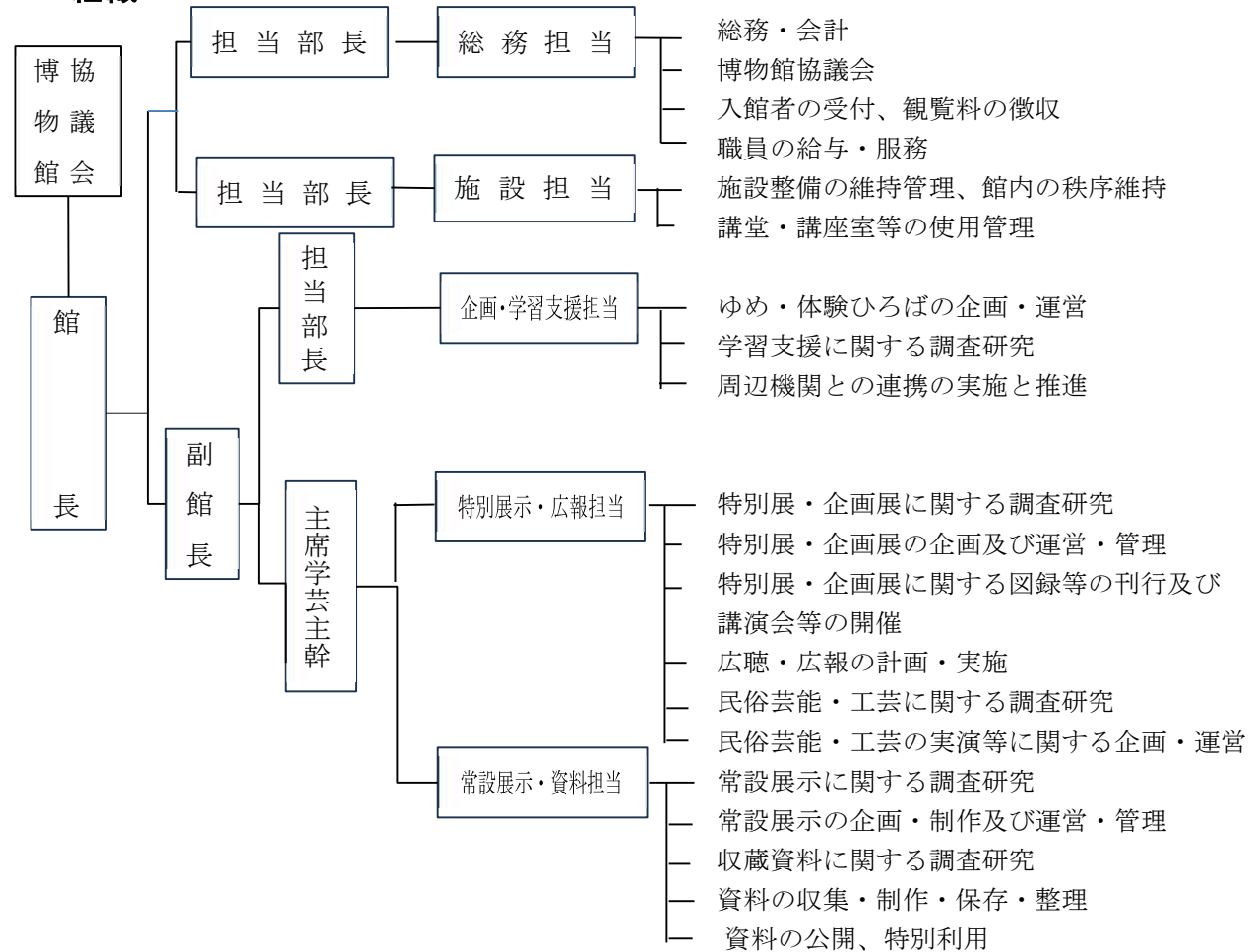
人それぞれに懐かしくもあり、新鮮でもある「昭和の原っぱ」は、かつてガキ大将で鳴らした団塊の世代の大人たちと、IT世代の現代っ子たちが、遊び文化の継承を通じて世代間交流ができる空間を提供している。

このように、特色ある4つのエリアから成る「ゆめ・体験ひろば」では、入館者はもとより、専門分野を担う博物館クルーや体験ボランティアなどが運営のサポートにあたることにより、「だれもが主役になれる博物館」づくりを進めている。

また、各施設は、ユニバーサルデザインに基づき、「誰にもやさしい博物館」として、安全に楽しく見学や体験ができるようになっている。

組織及び職員構成（令和8年4月1日現在）

1 組織



2 職員名簿

職名	氏名
館長	塩崎 豊
◎学芸全般 副館長	森内 優子
○総務担当 担当部長	小久保 達夫
主任	藤本 月斗
主事	戸谷 慎実
主事	門倉 能
会計年度任用職員	蝦 名
○施設担当 担当部長	栗林 雅志
主任	鍵屋 正典
主事	西村 晃斗
主事	轡田 蓮
○企画・学習支援担当 担当部長	芋川 修武
主任学芸員	服部 泰典
担当課長	金丸 充貴
担当課長	船越 沙羅
学芸員	尾崎 夏穂
主事	渡辺 萌香
学芸員	井上 拓実
学芸員	山田 拓実

職名	氏名
○特別展示・広報、常設展示・資料担当 主席学芸主幹	井上 かおり
[特別展示・広報担当] 主任学芸員	中村 陽平
主任	大見 薫
学芸員	木村 遼之
学芸員	駒見 敬祐
学芸員	井上 海実
学芸員	別所 鮎美
学芸員	佐藤 夏史
学芸員	小松 和史
[常設展示・資料担当] 主任学芸員	大橋 毅
学芸員	濱田 翠
学芸員	中島 萌
学芸員	黒田 千尋
学芸員	川邊 一乃
学芸員	津金 濤乃
学芸員	大島 駿
会計年度任用職員	村田 駿

3 埼玉県立歴史と民俗の博物館協議会委員名簿

任期 令和8年5月26日から令和10年5月25日まで

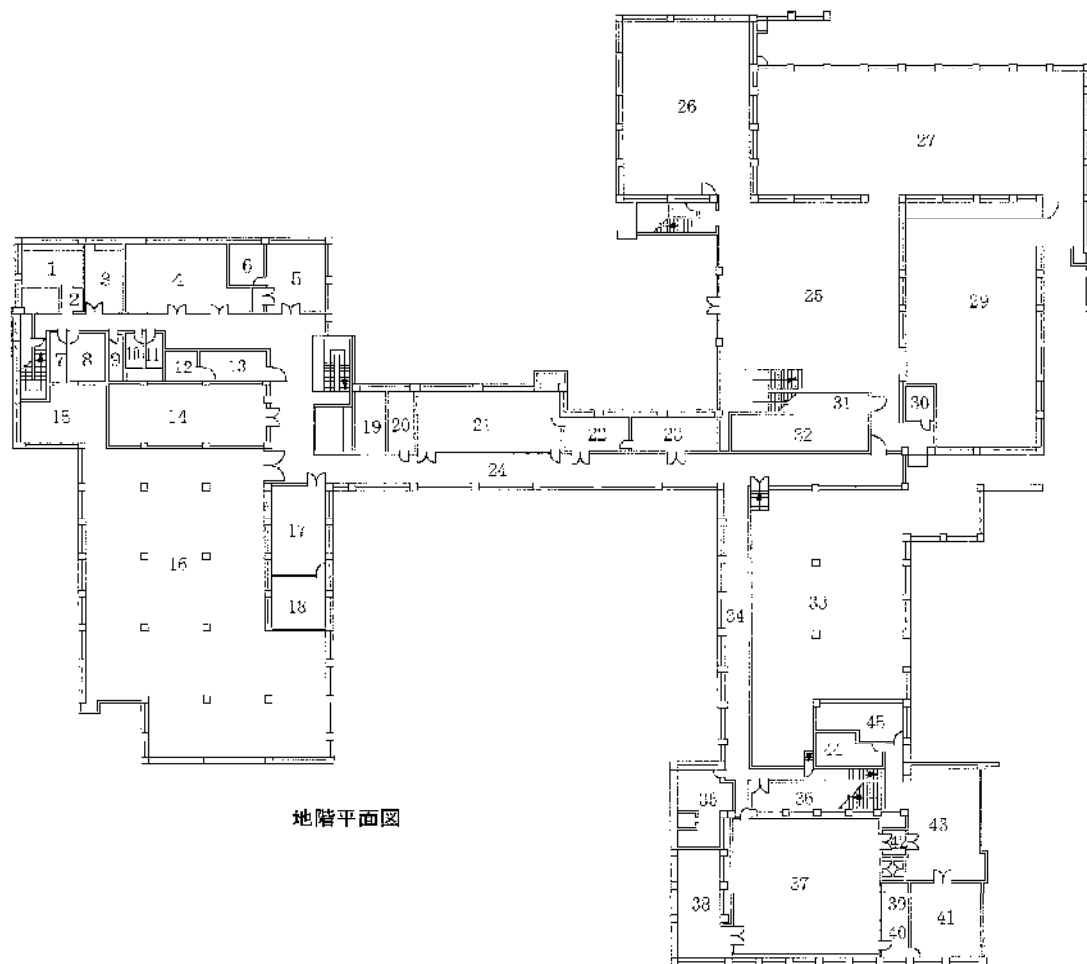
(選出区分別 敬称略 職名等は令和8年7月1日現在)

選出 区分	ふりがな 氏 名	職 名 等
学校教育 関係者	えのもと きいち 榎本 貴一	県立進修館高等学校長
	ただ ともこ 多田 朋子	県立所沢おおぞら特別支援学校長
	ぬくい ゆみこ 抜井 由美子	ふじみ野市立駒西小学校長
社会教育 関係者	ふかさわ かつみ 深澤 克巳	一般社団法人埼玉県子ども会連合会副会長
	まえかわ やすえ 前川 康恵	埼玉県地域婦人会連合会理事
家庭教育 関係者	え だ あきこ 江田 明子	埼玉県家庭教育振興協議会理事
	たがた きょうこ 田方 恭子	さいたま市立大宮南小学校学校地域連携コーディネーター
学 識 経 験 者	あさの えいこ 浅野 永子	さいたま市立博物館協議会委員
	あらい ちさと 新井 千里	(株)テレビ埼玉常務取締役 営業局・東京支社担当
	うちだ なおみ 内田 奈芳美	埼玉大学人文社会科学研究科教授
	かく こうへい 角 孝平	さいたま市北区盆栽町町会会長
	かわた じゅうぞう 河田 重三	渋沢栄一記念館資料解説員
	すぎうら しょうた 杉浦 翔太	地方公務員
	せき よしのり 関 義則	国士舘大学大学院非常勤講師 さいたま市遺跡調査会評議員
	なかむら だいすけ 中村 大介	埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授
	みずかみ かよこ 水上 嘉代子	女子美術大学非常勤講師 埼玉県文化財保護審議会委員
	みずたに えつこ 水谷 悦子	(独)国立文化財機構東京文化財研究所保存科学研究センター主任研究員

施設設備

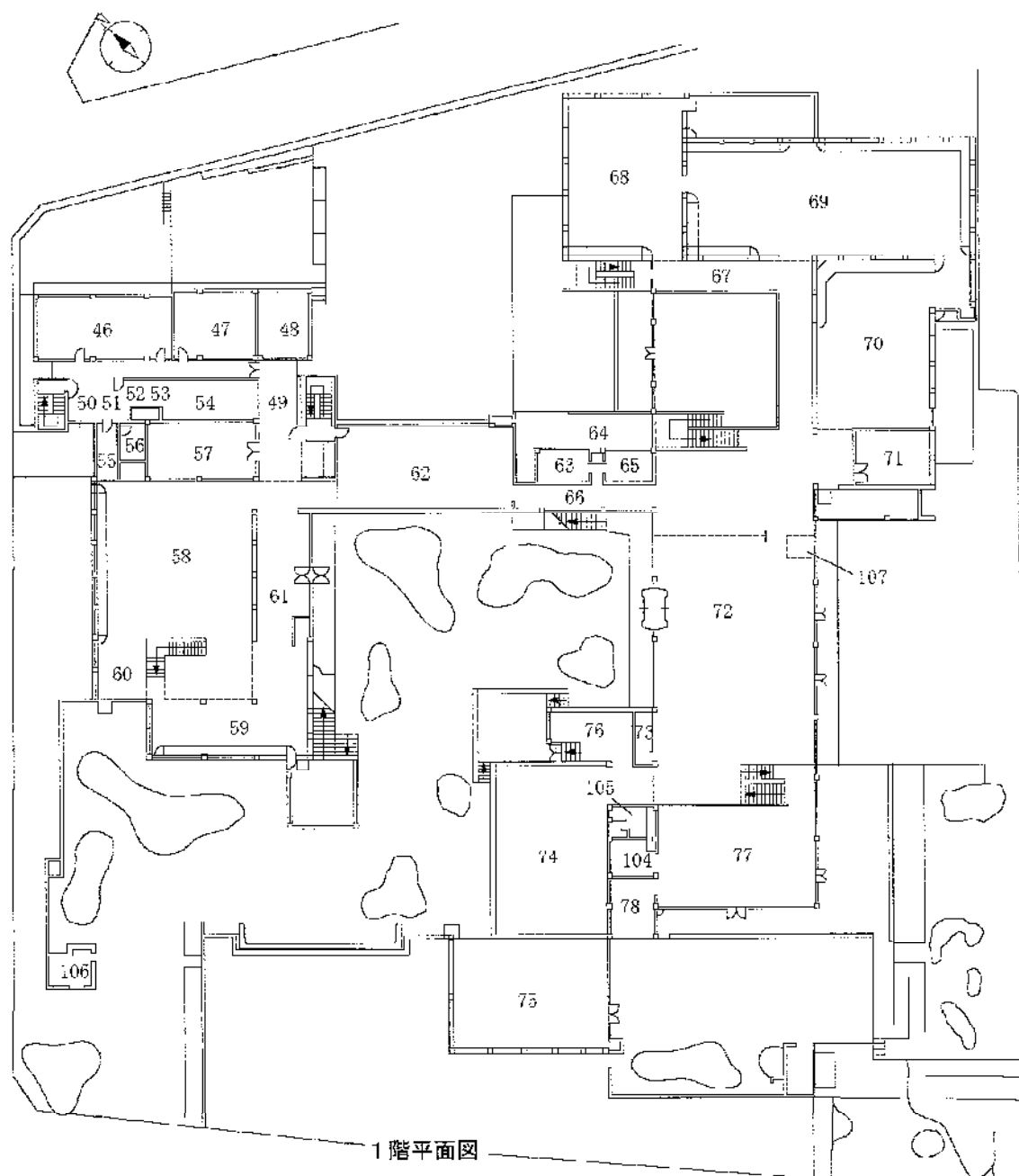
■敷地面積 12,753.71㎡ 延床面積 11,363.93㎡

各室配置図及び各室面積表

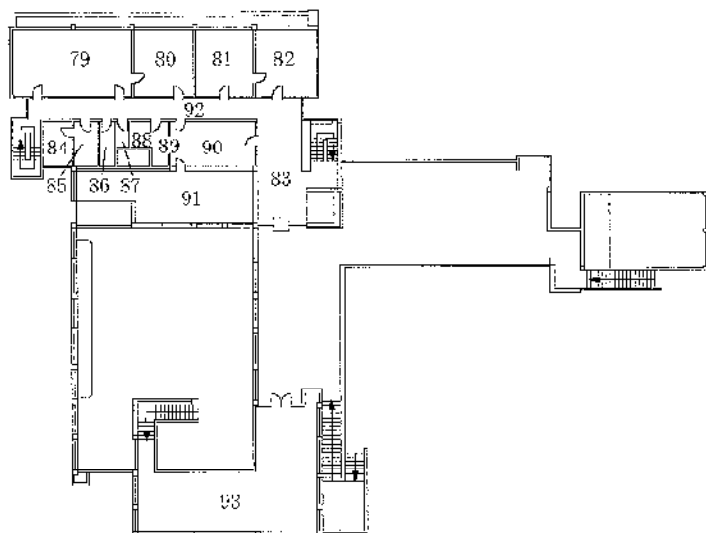


地階平面図

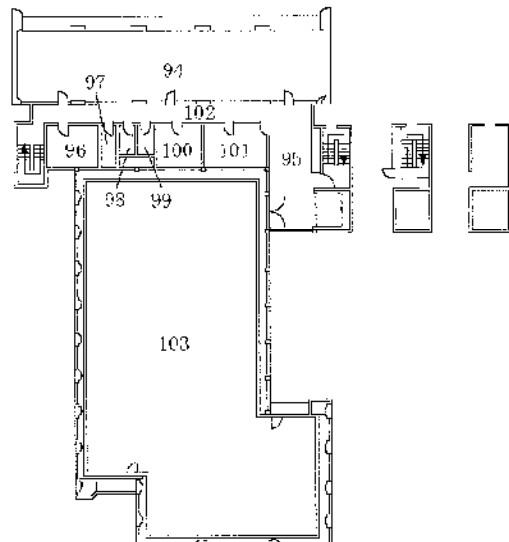
番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡
1	休養室	35.84	16	収蔵庫 2	604.80	32	倉庫 1	47.52
2	湯沸室	7.50	17	図書室 2	52.80	33	空調機械室 1	431.44
3	ボランティアルーム	30.24	18	炭酸ガスボンベ室	33.60	34	廊下	94.32
4	資料保存室	79.20	19	消火水槽	21.60	35	旧食堂事務室	43.92
5	スタジオ	40.32	20	消火ポンプ室	14.40	36	旧食堂倉庫	58.32
6	暗室	17.28	21	変電室	86.40	37	講堂	227.52
7	浴室	9.00	22	中央監視室	23.76	38	講堂準備室	51.84
8	控室	11.70	23	発電機室	32.40	39	音響調整室	10.56
9	男子便所	9.00	24	廊下	373.72	40	湯沸室	18.48
10	女子便所	6.12	25	常設展示室 6	367.74	41	講座室	60.48
11	掃除用具室	6.12	26	常設展示室 7	237.60	42	講堂前室	13.20
12	殺虫消毒室 1	10.26	27	常設展示室 8、9	450.72	43	講堂前ロビー	94.56
13	殺虫消毒室 2	28.50	29	常設展示室 10	320.64	44	男子便所	20.12
14	空調機械室 2	94.80	30	常設展示準備室 2	6.00	45	女子便所	28.60
15	収蔵庫 3	46.50	31	常設展示準備室 3	16.50			



番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡
46	管理事務室	108.00	59	特別展示室1	237.60	71	常設展示準備室1	54.06
47	車庫	64.60	60	休憩室	43.20	72	エントランスロビー	712.80
48	荷扱室	43.20	61	特別展示室エントランスビ-	116.64	73	コインロッカー室	14.40
49	荷解広間	63.36	62	季節展示室	195.84	74	自由自在座	207.36
50	管理棟エントランスビ-	26.88	63	客用男子便所	14.40	75	ものづくり工房	237.60
51	男子便所	9.00	64	みんなのトイレ	7.02	76	ゆめ・体験ひろば準備室	54.48
52	女子便所	6.12	65	客用女子便所	17.18	77	休憩コーナー	207.60
53	湯沸室	3.42	66	廊下	52.48	78	幼児コーナー	37.08
54	荷解梱包室	53.55	67	ギャラリー	144.96	104	自動販売機コーナー	18.47
55	警備員室	16.80	68	常設展示室4、5	237.60	105	倉庫2	8.82
56	救護室	13.20	69	常設展示室2、3	427.68	106	旧正門警備員室	17.55
57	特別展示準備室	72.00	70	常設展示室1	273.18	107	インフォメーション	-
58	特別展示室2	324.00						



2階平面図



3階平面図

番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡		
79	会議室	86.40	92	廊下	66.24	延床面積	11,363.93 ㎡
80	資料熟覧室	43.20	93	特別展示室3	151.20	内訳	
81	応接室	43.20	94	学芸事務室	226.80	・展示部門	4,984.38 ㎡
82	館長室	43.20	95	ロビー	51.84	展示室	(3,711.96 ㎡)
83	ロビー	51.84	96	副館長室	26.88	その他	(1,272.42 ㎡)
84	電話交換機室	16.53	97	男子便所	9.00	・収蔵部門	1,416.90 ㎡
85	男子更衣室	10.56	98	女子便所	6.12	・管理部門	4,962.65 ㎡
86	男子便所	9.00	99	湯沸室	3.42	その他	
87	女子便所	6.12	100	調査研究室2	21.12	建築面積	4,529.57 ㎡
88	湯沸室	3.42	101	調査研究室1	26.88	内訳	
89	女子更衣室	10.32	102	廊下	66.24	・本館	4,512.02 ㎡
90	図書室	38.40	103	収蔵庫1	712.80	・旧正門警備員室	17.55 ㎡
91	書庫	94.20					

資 料

1 年度別当初予算一覧

単位：千円

年 度	管理運営費	展示事業費	ゆめ・体験ひろば事業費	博物館資料収集管理費	常設展示室展示設備更新事業費	計
平成21	23,319	26,627	6,200	4,292	—	60,438
22	22,633	27,941	5,830	4,135	—	60,539
23	23,194	36,829	5,436	4,456	—	69,915
24	24,395	33,326	8,646	4,268	—	70,635
25	20,647	41,305	6,233	3,991	—	72,176
26	22,855	39,144	6,327	4,032	—	72,358
27	19,891	50,201	5,881	4,127	—	80,100
28	23,303	37,956	5,886	4,215	—	71,360
29	21,193	43,568	5,888	4,281	—	74,930
30	21,055	37,191	5,752	4,331	5,500	73,829
31 令和元	25,072	38,914	5,949	4,461	5,552	79,948
2	21,954	48,307	4,459	6,241	5,603	86,564
3	25,197	48,802	4,250	5,921	5,332	89,502
4	23,409	40,343	4,065	5,198	5,000	78,015
5	25,561	36,014	3,574	5,398	5,000	75,547
6	25,660	51,551	4,539	5,564	5,000	92,314
7	28,110	54,609	4,903	7,685	1,700	97,007
8	28,619	55,089	4,984	7,687	7,286	103,665

2 入館者数の推移

年 度	開館日数	利用人員	1日平均利用者数	備 考
平成21	184 日	90,477 人	492	9月14日～2月15日工事休館
22	208 日	93,138 人	448	11月15日～3月16日休館
23	305 日	133,160 人	437	
24	310 日	126,886 人	409	
25	311 日	119,953 人	386	平成25年7月1日から高齢者の観覧料減免措置廃止
26	310 日	135,221 人	436	
27	308 日	146,203 人	475	
28	310 日	138,209 人	446	
29	309 日	142,566 人	461	
30	315 日	119,103 人	378	
31 令和元	284 日	104,292 人	367	令和元年10月12日～13日台風のため休館 令和2年2月29日～3月31日感染拡大防止のため休館
2	186 日	23,424 人	126	令和2年4月1日～5月24日感染拡大防止のため休館 令和2年12月24日～3月21日感染拡大防止のため休館
3	306 日	58,333 人	191	令和3年8月26日～8月30日感染拡大防止のため休館
4	212 日	62,125 人	293	令和4年12月5日～令和5年3月31日工事休館
5	147 日	44,971 人	306	令和5年4月1日～令和5年10月13日工事休館
6	314 日	102,384 人	326	
7	314 日	113,130 人	360	

3 所蔵資料数(令和8年3月31日現在) 127,404点(+122点)

絵画	(+5点) 1,598点	工芸	1,485点	彫刻	36点	書跡	182点
歴史	(+117点) 49,318点	民俗	68,728点	考古	6,024点	模型	33点

4 特別展等一覧

年度	春	夏	秋	冬
昭和 46			(開館記念特別展) 埼玉百年史	
47		縄文の美となぞ	アイヌ文化展	関東の鉄仏
48		寺内萬次郎展	台湾の民具	昔の旅
49		足輕胴と陣笠	東北の美術	小村雪岱展
50	原始の世界	埼玉景勝30選展	斉藤与里展	
51	永田二郎展	埼玉の張り子展	さいたまの肖像展	近代埼玉の書
52	中野四郎作品展		戦国武将展	はにわ展
53	埼玉のやきもの	近世埼玉の文人展	奥原晴湖展	
54	弁当箱にみる用と美		絵馬展	胎内納入品をもつ仏像
55	大久保喜一展		文化財保護法施行30周年記念埼玉 の指定文化財展－美術工芸品	板碑展
56		編む	江戸のよそおい	木と漆の原始工芸 －寿能泥炭層遺跡出土品展－
57			古代東国の薈	
58			(新装開館記念特別展) 武蔵武士	荒川の漁具・漁・祖おやの譜録
59	浮世絵	埼玉・岩手文化交流展 北武蔵 杖刀人とその時代	埼玉・岩手文化交流展 縄文の風景－大地と呪術－	江戸の風俗 －絵筆が語る町人文化－
60	宿場	激動の昭和	(外) メキシコの民芸 －太陽と神々の匠たち－	かお
61	古代の祭祀	(外) 古代メキシコ・オルメカ 文明展	海上之邦おきなわ	武蔵ゆかりの武器・武具
62	秩父－繭そして信仰－	収蔵品展	(外) 埼玉県・山西省友好県省 締結50周年記念－山西省文物展	遊びとおもちや
63	日本のあけぼの	収蔵品展	さいたまの円空	古墳－かざり大刀の世界－ 世界盆栽大会協賛特別企画展 樹盆－その美と歴史－
平成 元	世界盆栽大会協賛特別企画展 樹盆－その美と歴史－ 比企－丘陵に生きた人々の暮らし と文化－	収蔵品展	(外) クイーンズランド文化展 －姉妹州の4万年の歴史－	酒の文化史
2	さいたまの海 －縄文人からの伝言－	収蔵品展	南蛮の美術 －異国にあこがれた武将たち－	お金百態－寄託資料 埼玉銀行コ レクションを中心に－
3	音のかたち－日本の音を探る－	収蔵品展	(開館20周年記念展) さいたまの名宝 国宝・重要文化 財	喫茶の考古学－茶の湯再発見－ かたどられた祈り－木・紙・藁の フォークロア
4	かたどられた祈り－木・紙・藁の フォークロア	江戸のからくり夢空間－近代科学 事始	はなのいるはうつりにけり な・・・歌仙絵の世界	鯉絵－鯉が踊れば世も動く－ つば・かめ・すりばち－中世のや きものと暮らし
5	つば・かめ・すりばち－中世のや きものと暮らし	河童VS天狗 －人と妖怪の交流史－	甦る光彩－関東の出土金銅仏－	奉納された道中アルバム －絵馬にみる寺社参り－
6	相撲－むかしきけちゝぶ殿さへす まふとり－	子育ての原風景 －カミの子からムラの子へ－	検証！関東の弥生文化 －一粒の米が変えた暮らし－	最新出土品展 さいたま地中からのメッセージ
7	観・天・望・気 －お天気文化史－	最新出土品展	古代東国の渡米文化	美の匠たち－日本刀をめぐる“わ ざ”の世界－

年度	春	夏	秋	冬
8	美の匠たちー日本刀をめぐる“わざ”の世界ー	最新出土品展	太平記絵巻の世界	歴史を歩く～埼玉の札所めぐり～
9	歴史を歩く～埼玉の札所めぐり～	最新出土品展	女帝明正天皇と将軍家光～松平信綱とその時代～	人形と張り子 桜花爛漫
10	桜花爛漫	最新出土品展	女性はにわーその装いとしぐさー	さいたまの鉄道
11	さいたまの鉄道	さいたま最新出土品展 ‘99	アイヌの四季と生活 ー十勝アイヌと絵師・平沢屏山ー	さいたまの名宝シリーズ2 ゆ～お風呂の文化史～
12	ゆ～お風呂の文化史～		ー象がゆくー将軍吉宗と宮廷 雅	発掘された日本列島2000・さいたま出土品展
13		発掘調査速報展	(開館30周年記念展) 埼玉の名宝シリーズ3ー神楽の風景ー	めざせ日本の近代化 ～日本の産業育てた渋沢栄一～
14	KEMARIー蹴鞠ー	発掘調査速報展	開設四百年 中山道ー武州往来ー	
15		埼玉の名宝シリーズ4 めざめる古代ー新指定の考古資料ー	平林寺	銀座復興絵巻
16	銀座復興絵巻	埼玉県発掘調査速報2004	国宝太刀・短刀と太平記絵巻	羽子板の美とわざ 年中行事絵巻
17	年中行事絵巻	あの遺跡この遺物ー埼玉発掘50年史ー	刻まれた鼓動 ～歓喜院聖天堂の彫刻建築～	
18	芸能絵巻～舞い踊り囃す～	天下をまわって1300年 お金がめぐる社会史	由来 伝来 名刀の一千年	祈りの風景 埼玉の絵馬
19	祈りの風景 埼玉の絵馬	博物館発ーちいさな旅ー ー埼玉遊覧案内ー	お伊勢さんと武蔵	日本の色彩～藍・紅・紫～
20		埼玉サッカー100年	名もなき至宝ーうけつがれし重要有形民俗文化財ー	誕生 武蔵武士
21		いただきます～食の文化史～	出張博物館in深谷	雑兵物語の世界
22	雑兵物語の世界	ヒーロー参上	仏教伝来 埼玉の古代寺院	降嫁150年記念 皇女和宮と中山道
23	降嫁150年記念 皇女和宮と中山道	あそび漫遊	(開館40周年記念展) 円空 こころを刻む ー埼玉の諸像を中心にー	大名と藩-天下泰平の立役者たち-
24	大名と藩 -天下泰平の立役者たち-	にほん美術夏期学校	職人のわざとカタ ー商品の誕生ー	埼玉歴史街道Ⅰ -『新編武蔵風土記稿』の世界-
25	発掘された木の道具	絵で語る埼玉の民話 -池原昭治 童絵の世界-	狩野派と橋本雅邦 -そして近代日本画へ	圏央道の遺跡 ～埼玉の発掘調査 西から東から～
26	渋沢敬三没後50周年記念事業 屋根裏部屋の博物館 -Attic Museum-	にっぽん歴史街道 江戸の街道(みち) ～絵図でだどる宿場と関所～	甕の鉄剣	埼玉の自由民権
27	氷川神社と大宮公園	戦国図鑑 ーCool Basara Styleー	慈光寺 国宝 法華経一品経を守り伝える古刹	
28	蔵出し資料 ー館有コレクションの優品ー	高麗郡1300年 ー物と語りー	徳川家康 ー語り継がれる天下人ー	祝いの民俗 ーハレの造形ー
29	縄文の空間 ー暮らしと願いー	くらべる古美術 ー見て考える美術のひみつー	上杉家の名刀と三十五腰	明治天皇と氷川神社 ー行幸の軌跡ー
30	田んぼ ー埼玉、人と水の風景ー	古文書 大公開！ ーみる・よむ・しらべる埼玉ー	ダムと変わる！ 私たちの暮らし！	埼玉の官衙 ー律令時代の“お役所”ー
31 令和 元	東国の地獄極楽	北沢楽天と時事漫画	子ども／おもちゃの博覧会	縄文時代のたべもの事情
2	武蔵国の旗本 (感染拡大防止のため全日程休館)	太平記絵巻 (感染拡大防止のため開催延期)	新収集品展2018・2019	銘仙 (感染拡大防止のため全日程休館)
3	(NHK大河ドラマ特別展) 青天を衝け ～渋沢栄一のまなざし～	太平記絵巻 ー描かれた武士の世界ー	(埼玉150周年及び開館50周年記念展) 埼玉考古50選	お茶を楽しむ

年度	春	夏	秋	冬
4	埼玉武術英名録 共催展 昌国寺	発掘された日本列島2022 地域展「埼玉の国指定史跡」	銘仙	
5	(出張展示 in 深谷) 書画から見よう 栄一と惇忠		縄文コードをひもとくー埼玉の縄文土器とその世界ー	巡り・廻りの民俗行事
6	鉢形城主 北条氏邦	お金を出して！ーお金のふしぎ探検隊ー	鷹のおでましー鷹狩の美術ー	新収集品展 2022・2023
7	はたらく装いのフォークロア	名所 大宮ー鉄道のまち・公園のまちー	大名と菩提所	太平記をよむ
8	埼玉の宝物～人々が守り伝えた文化財～	土をこねこね1万年～土製品の考古学～	文人画家の寄り道ー文晁、崋山と同好の士ー	出張展示 所沢飛行場ものがたり

利用案内

◆展示室等の観覧について

1 開館時間

午前9時から午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

※ 7月1日から8月31日までは、午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）

2 休館日

（1）月曜日（ただし祝日及び振替休日、8月17日は開館）

（2）年末年始（12月29日から1月1日まで）

（3）館内消毒及び展示替えのため休館（6月1日から6月8日まで及び9月7日から9月8日）

3 展示解説

（1）各展示室では、ボランティアが御希望に応じて解説・案内します。

（2）団体見学の場合は、10日前までにお申し込みください。

4 観覧料

（1）常設展示： 一般 300円（200円） ※（ ）内は団体（20人以上）料金
 高校・学生 150円（100円）

（2）特別展・企画展開催期間中は別に定めます。

（3）次の方は無料で観覧できます。

① 義務教育修了前（中学生以下）の方

② 障害者の方（身体障害者手帳・療育手帳等の交付を受けている方）

③ 上記障害者の介護の方（障害者一人につき一人）

※ 65歳以上の方の観覧料につきましては、条例改正により、平成25年7月1日から一般の方と同額になりました。

5 観覧料の免除とその手続き

（1）次の場合は、「観覧料等減額（免除）申請書」に、実施計画書等を添付の上、観覧日の10日前までに提出していただくことにより観覧料を免除します。

① 教育課程に基づく学習活動やクラブ活動として観覧する幼稚園、保育所園、小・中学生の引率の方

② 教育課程に基づく学習活動やクラブ活動として観覧する高校・大学生・各種学校等の生徒とその引率の方

③ 埼玉県、埼玉県教育委員会、国、他の地方公共団体が開催する歴史と民俗の博物館の資料に関する事業（講演会、講習会、研究会等）を企画した主催（引率）の方

④ 埼玉県又は埼玉県教育委員会が開催する全国会議・ブロック会議・研修会等に参加し、会議又は研修会の日程の一環として観覧する方

（2）次の場合は、視察依頼書を提出していただくことにより観覧料を免除します。

① 埼玉県、埼玉県教育委員会、国、地方公共団体又は市町村等関係機関関係者で、歴史と民俗の博物館の事業及び施設設備の視察を目的とした観覧

（3）次の場合は、インフォメーションにお申し出いただくことにより観覧料を免除します。

- ① 教育課程に基づく学習活動のための下見をする方
- ② 歴史と民俗の博物館に資料を寄贈、寄託している方
- ③ 歴史と民俗の博物館が発行する優待券、招待券、ボランティア登録証をお持ちの方

6 問合せ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 総務担当
電話 048-641-0890 F A X 048-640-1964

◆講堂・講座室について

1 施設の概要

- (1) 講 堂 面積 227.52㎡ 収容人員 162人
- (2) 講座室 面積 60.48㎡ 収容人員 30人

2 利用料金

種 類	項 目 （ 貸 出 単 位 ）	金 額
施 設 使 用 料	講 堂（1 時間）	630円
	講座室（1 時間）	160円
附 属 設 備 使 用 料	音響設備（1 回）	110円
	ビデオプロジェクター（1 回）	840円

- (1) 附属設備については、利用開始からその日の利用終了までで1回とします。
- (2) 使用料が減額又は免除になる場合があります。詳細についてはお問い合わせください。

3 注意事項

- (1) 次の場合、施設の御利用はできませんので、御了承ください。
 - ① 博物館の管理上支障があると認められるとき。
 - ② 公共の福祉を阻害するおそれがあると認められるとき。
 - ③ その他博物館の設置の目的に反すると認められるとき。
- (2) 施設利用を許可するにあたり、必要がある場合は、条件を付したり、制限を加えたりすることがあります。
- (3) 施設を利用できるのは、開館日の開館時間内のみです。
- (4) 利用時間には、準備及び片付けの時間も含まれます。
- (5) 利用を終了したときは、施設の状態を速やかに利用前の状態に戻してください。
施設や設備を損傷したり、備品等を紛失したり損傷したりしたときは、それを修理し、損害を賠償していただきます。
- (6) 附属設備、長机、予備椅子を利用したい場合は、事前に申し出てください。
- (7) 研究会等で図録等を販売しようとするとき、又は特別の設備等を利用しようとするときは、事前に申し出てください。
- (8) 講堂・講座室は地下1階にあり、エレベーター、スロープ等はありません。
階段昇降機が設置されておりますので、車椅子で御利用になる場合は、職員が操作いたします。

遠慮なくお申し出ください。

(9) 展示室は有料となりますので、展示室を御利用の際は観覧券をお買い求めください。

4 利用申込み

- (1) 原則として、利用日の属する月の3か月前の初日（その日が休館日である場合にはその翌日）から、利用日の7日前（その日が休館日である場合にはその前日）までに、埼玉県立歴史と民俗の博物館事務室まで「施設等利用（変更）許可申請書」を提出してください。ただし、事前に電話による仮予約をすることができます。
- (2) 予約及び申請の受付時間は、開館日の開館時間内のみです。
- (3) 申請に基づき、「施設等利用（変更）許可書」及び使用料の「納入通知書」を発行します。
- (4) 使用料については、「納入通知書」により、最寄りの金融機関等で納入期限までに納入してください。

5 申込み・問合せ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 施設担当
電話 048-641-0890 F A X 048-640-1964

◆資料の写真原板使用及び資料写真撮影・熟覧について

当館の所蔵資料で写真原板があるものについては有料で御利用いただけます。
また、保存上などで問題がない資料については、写真撮影・熟覧の取扱いをいたします。

申込み・問合せ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 常設展示・資料担当
電話 048-645-8171 F A X 048-640-1964

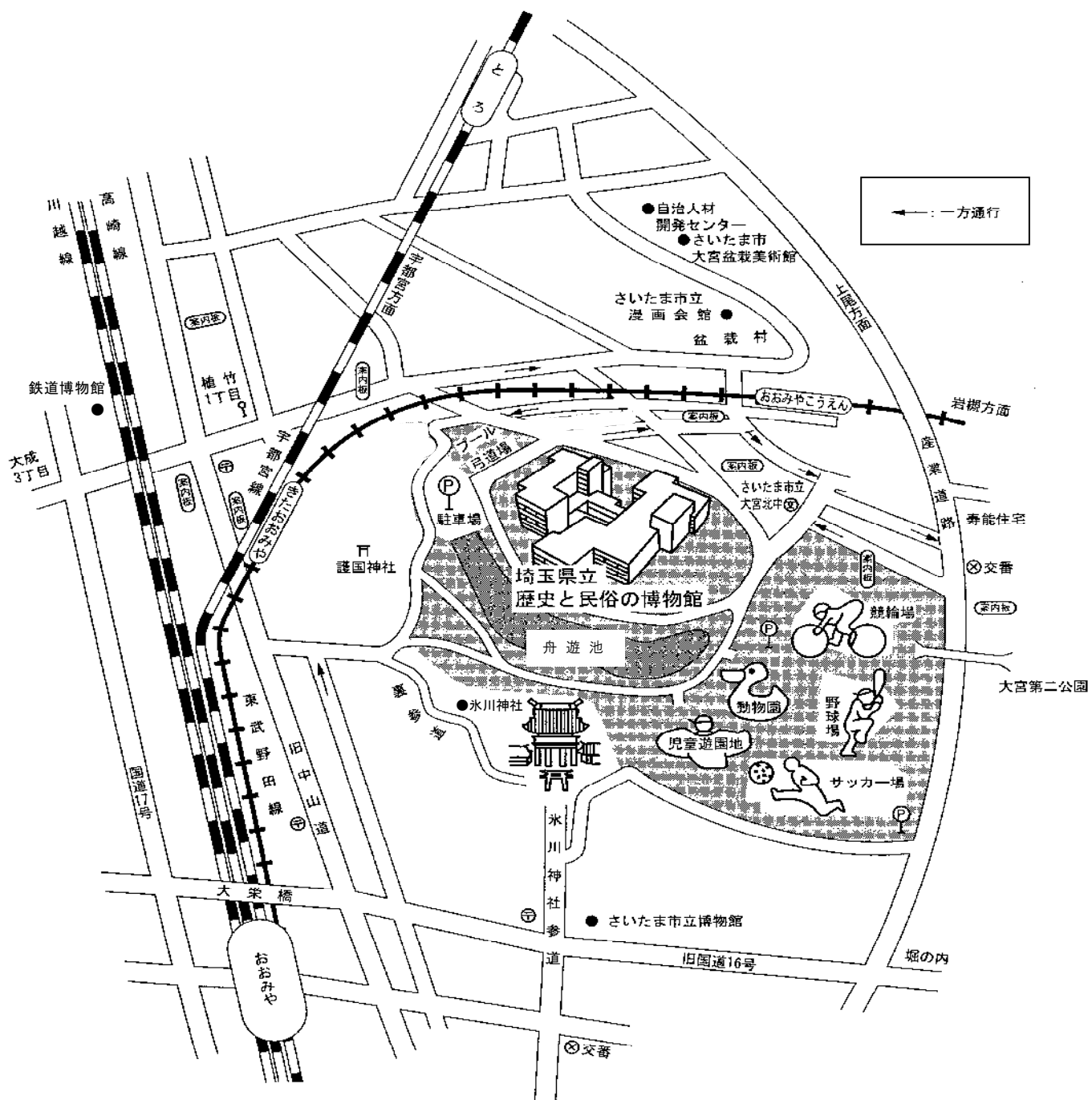
◆資料の寄贈受入について

資料の寄贈希望がある場合は、常設展示・資料担当に御一報ください。事前調査をしたのち、書類手続きを行います。その後、資料評価委員会に諮り、審議したのち正式に受け入れます。

※ 当館の資料受入基準から外れるもの、すでに同様の資料が収蔵されている場合などは、事前調査をすることなくお断りする場合がありますので御了承ください。

申込み・問合せ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 常設展示・資料担当
電話 048-645-8171 F A X 048-640-1964



◆交通案内

東武アーバンパークライン<野田線> 大宮公園駅下車 徒歩5分
JR宇都宮線 土呂駅下車 徒歩18分



埼玉県のマスコット コバトン

令和8年度 埼玉県立歴史と民俗の博物館要覧（第21号）
〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
TEL 048-645-8171（学芸）
TEL 048-641-0890（総務・施設）
FAX 048-640-1964
ホームページURL <https://saitama-rekimin.spec.ed.jp/>

発行：令和8年7月